

# 日本地質学会 *News*

Vol.23 No.7 July 2020





# 一般社団法人日本地質学会

## The Geological Society of Japan

### 理事

任期：2020年5月23日～2022年総会

会長（代表理事） 磯崎行雄（東京大学）

副会長 佐々木 和彦（応用地質（株））  
平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）

常務理事 中澤 努（産業技術総合研究所）  
副常務理事 岡田 誠（茨城大学）

執行理事 ウォリス サイモン（東京大学）  
緒方信一（中央開発（株））  
大藤 茂（富山大学）  
狩野彰宏（東京大学）  
亀高正男（（株）ダイヤコンサルタント）  
小宮 剛（東京大学）  
坂口有人（山口大学）  
高嶋礼詩（東北大学）  
辻森 樹（東北大学）  
星 博幸（愛知教育大）  
松田達生（工学気象研究所）  
矢部 淳（国立科学博）

理事 上松佐知子（筑波大学）  
芦 寿一郎（東京大学）  
天野一男（東京大学）  
安藤寿男（茨城大学）  
内野隆之（産総研）  
尾上哲治（九州大学）

笠間友博（箱根ジオミュージアム）  
亀尾浩司（千葉大学）  
亀田 純（北海道大学）  
川端清司（大阪市立自然史博）  
北村有迅（鹿児島大学）  
清川昌一（九州大学）  
後藤和久（東京大学）  
小松原純子（産総研）  
齋藤 眞（産総研）  
杉田律子（科学警察研）  
竹下 徹（北海道大学）  
内藤一樹（産総研）  
納谷友規（産総研）  
奈良正和（高知大学）  
西 弘嗣（東北大学）  
根本直樹（弘前大学）  
野田 篤（産総研）  
早坂康隆（広島大学）  
藤井正博（応用地質（株））  
細矢卓志（中央開発（株））  
保柳康一（信州大学）  
松田博貴（熊本大学）  
三田村宗樹（大阪市大学）  
道林克禎（名古屋大学）  
矢島道子（日本大学）  
山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

### 監事

任期：2020年5月23日～2024年総会

岩部良子（応用地質（株））  
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

# 日本地質学会 *News*

Vol.23 No.7 July 2020

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 小宮 剛

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

## Contents

### 一般社団法人日本地質学会2020年度総会記事 ……2

議事録／2019年度事業計画に照らした本年度実績概要／2019年度事業経過報告／2020年事業計画骨子／財務諸表／永年会員顕彰者／2020年度名誉会員推薦理由／2020年度各賞授賞理由

### CALENDAR……22

#### 各賞・研究助成

第42回（令和2年）沖縄研究奨励賞推薦応募／第61回東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦／日本アイソトープ協会奨励賞募集／「朝日賞」候補者推薦依頼

#### 紹介……23

静岡の大規模自然災害の科学 岩田孝仁ほか編（後藤和久）／見えない絶景：深海底巨大地形 藤岡換太郎著（小川勇二郎）

#### 表紙紹介……25

断層運動によって生じた球状ブロック（後藤繁俊）

#### TOPIC……26

昇仙峡は黒富士が造った？：「地質図Navi」と「地理院地図」で楽しむ四次元の旅（前編）  
（高山信紀）

### 日本地質学会第1回・第2回ショートコース開催のご案内……28

#### 学会事務局からのお知らせ

学会事務局は、現在も出勤日数や人数を調整しながら一部テレワークを実施しております。営業時間は通常通り、電話対応も再開しておりますが、事務局へのご連絡・お問い合わせは、できるだけメールでお送りいただけると幸いです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### 事務局営業カレンダー

営業時間：9:30から18:00まで

7月 July

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     |     |     | 1   | 2   | 3   | 4   |
| 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11  |
| 12  | 13  | 14  | 15  | 16  | 17  | 18  |
| 19  | 20  | 21  | 22  | 23  | 24  | 25  |
| 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  |     |

8月 August

| SUN      | MON      | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|----------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
|          |          |     |     |     |     | 1   |
| 2        | 3        | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   |
| 9        | 10       | 11  | 12  | 13  | 14  | 15  |
| 16       | 17       | 18  | 19  | 20  | 21  | 22  |
| 23<br>30 | 24<br>31 | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  |

お休み

※事務局夏期休業：8/13-14(予定)

印刷・製本：日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

# 一般社団法人日本地質学会2020年度総会

## 一般社団法人日本地質学会 2020年度総会議事録

以下のとおり、2020年度定時社員総会を開催した。

日時 2020年5月23日（土）14:00～15:35  
【WEB会議形式】

- ・総会開催にあたり本日出席の代議員から、議長として内藤一樹代議員を、副議長として細矢卓志代議員を選出した。
- ・議長は審議開始に際し、書記として大坪誠代議員ならびに大谷具幸代議員を指名し、また、同時に議事録署名人として、両名を指名した。
- ・議長は、出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数45名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員（＝社員）総数 99名、  
議決権総数99個。

出席者数 85名（1号：委任状（以下、委）41／議決権行使者（以下、議）29、2号：委40／議30、3号：委40／議30、4号：委41／議29、5号：委40／議30 を含む）

出席役員 代表理事（会長）：松田博貴 理事：佐々木和彦（副会長）・平田大二（副会長） 理事：天野一男・安藤寿男・磯崎行雄・ウォリスサイモン・大藤 茂・岡田誠・緒方信一・笠間友博・神谷奈々・亀尾浩司・亀田 純・川端清司・北村有迅・小松原純子・小宮 剛・斎藤 眞・坂口有人・佐々木和彦・菖蒲幸男・菅沼悠介・杉田律子・竹内 誠・竹下 徹・辻森 樹・中澤 努・奈良正和・西 弘嗣・楡井久・早坂康隆・平田大二・廣木義久・福富幹男・星 博幸・保柳康一・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子・山口耕生以上、理事39名

監事：山本正司  
以上、監事1名

### 1号議案 2019年度事業報告・2019年度決算報告

1) 松田会長から資料にもとづき2019年度の事業実績概要の報告があった。また斎藤常務理事より、昨年度行われた事業内容、執行理事会および理事会議決・承認事項について報告が行われた。2019年度には日本地質学会第126回学術大会（山口大会：2019年9月23日～25日）が開催されたが、大会前日に台風17号の来襲によりプレ巡検が中止になったものの、その他の行事は大きな支障もなく盛況裡に開催された。地質学

会のこれまでの国際層序に関する取組みやその意味・意義、ならびに詳細の再確認を目的として、「GSSP シンポジウム～国際層序の意味と意義～」(産総研共同講堂：2019年11月23日)を、産業技術総合研究所・日本古生物学会と共同して開催されたことが報告された。地質学雑誌では、125周年記念特集号の出版を継続して実施し、通常論文の投稿も若干増加し、安定した出版ができたことが報告された。地球惑星科学系最大の学会として学問発展に寄与するために「学術大型研究計画」が、大型研究（マスタープラン2020）に内定したことが報告された。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、支部例会や総会等の行事開催にあたっては適切な対応を求め、会員・一般参加者の健康、ならびに公衆衛生に配慮したことが報告された。日本地質学会賞など各賞選考結果およびIsland Arc賞選考結果について報告された。

なお、2019年5月以降2020年5月までに逝去された会員および今年度において逝去が判明した会員20名（うち名誉会員8名）に対し、黙祷を捧げた。

2) 会計担当の西理事から2019年度決算について報告があった。ただし、新型コロナウイルスの影響で会計監査を終えていないことから、決算については会計監査後改めて承認を得たい旨説明があった。また報告の中で、会員数の減少傾向が継続しており、会費収入の減収が続いていることが紹介された。

決算についてのみ、本日の議決対象には含めず、継続案件とすることが提案された。

1号議案に対しては、学術大会開催について担当支部との協議が十分行われていないとの反対意見があった。これについては、連絡がやや遅れたが、本総会までに担当支部、および開催地関係者らとの合意が得られている旨説明があった。本議案について、2019年度決算を除いた内容に対して採決を行い、賛成84、反対1で本議案は承認された。

### 2号議案 代議員および理事選挙結果

飛田選挙管理委員長より、現理事および監事全員が本総会終了と同時に任期満了し退任となるため、代議員および理事選挙を実施した旨報告があった（代読：斎藤常務理事）。代議員立候補者の当選結果、代議員からの理事立候補者の当選結果が報告された。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

### 3号議案 2020年度事業計画

松田会長より、2019年度の本学会の事業成果を踏まえた2020年度の事業計画の基本方針が示された。会員数減少に伴う理事や代議員の定数の見直し、支部のあり方、とくに幹事の成り手が少ないこと、2020年度の学術大会開催について、議場からのコメント、質問があった。代議員や理事の定数の見直しを2020年度に検討していくこと、魅力ある支部活動の充実の重要性が説明された。また、2020年名古屋大会の中止（延期）が事業計画に反映されていない旨、議決権行使書での反対意見があったが、これについては、事業計画立案時には大会開催が前提とされており、今後の大会開催可否については次期理事会での検討に委ねる旨説明があった。

本議案は、賛成84、反対1で承認された。

### 4号議案 2020年度予算案

西理事より2020年度の予算案について説明がなされた。2019年度予算より収入、支出とも減額となっている。経費節減、事務局体制の改革に努めているものの、来年度は引き当て預金を445万円取り崩す必要があることが説明された。また、2020年度より年会講演要旨をwebでの掲載とするため、年会開催事業での印刷製本費支出を計上していないことが説明された。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

### 5号議案 名誉会員の選出

佐々木名誉会員推薦委員会委員長より、候補者2名について紹介があった。

本議案は、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

以上をもって審議を終了し、松田博貴会長の退任挨拶の後、議長は閉会を宣言した。閉会に際し、1号議案の2019年度決算に対する審議のため、総会の「継続会」（7月予定）を開催する旨議長より告知があった。

2020年5月23日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2020年度総会

総会議長 内藤一樹

総会副議長 細矢卓志

議事録署名人 大坪 誠

議事録署名人 大谷具幸

代表理事 松田博貴

理事 斎藤 眞

2020年度理事（任期2年）

渡邊佐知子（就任） 芦 寿一郎（就任） 天野一男（重任） 安藤寿男（重任） 磯崎行雄（重任） ウォリスサイモン（重任） 内野隆之（就任） 大藤 茂（重任） 岡田 誠（重任） 緒方信一（重任） 尾上哲治（就任） 笠間友博（重任） 狩野彰宏（重任） 亀尾浩司（重任） 亀高正男（就任） 亀田 純（重任） 川端清司（重任） 北村有迅（重任） 清川昌一（就任） 後藤和久（就任） 小松原純子（重任） 小宮 剛（重任） 斎藤 真（重任） 坂口有人（重任） 佐々木和彦（重任） 杉田律子（重任） 高嶋礼詩（就任） 竹下 徹（重任） 辻森 樹（重任） 内藤一樹（就任） 中澤 努（重任） 納谷友規（就任） 奈良正和（重任） 西 弘嗣（重任） 根本直樹（就任） 野田 篤（就任） 早坂康隆（重任） 平田大二（重任） 藤井正博（就任） 星 博幸（重任） 細矢卓志（就任） 保柳康一（重任） 松田達生（就任） 松田博貴（重任） 三田村宗樹（重任） 道林克禎（重任） 矢島道子（重任） 矢部 淳（就任） 山口飛鳥（就任）

以上49名

## 一般社団法人日本地質学会 2020年度総会「継続会」議事録

以下のとおり、2020年度定時社員総会「継続会」を開催した。

日時 2020年7月4日（土）14:00～14:26  
【WEB会議形式】

- ・議長より5月23日総会時に承認できなかった第1号議案の一部内容について審議するため、「継続会」の開催が宣言された。
- ・議長は審議開始に際し、書記として大坪誠代議員ならびに大谷具幸代議員を指名し、また、同時に議事録署名人として、両名を指名した。
- ・議長は、出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数49名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員（＝社員）総数 99名、  
議決権総数99個。

出席者数 65名（委任状23／議決権行使者33を含む）

出席役員 代表理事（会長）：松田博貴 理事：安藤寿男・磯崎行雄・ウォリスサイモン・大藤 茂・岡田 誠・緒方信一・小宮剛・斎藤 真・佐々木和彦・辻森 樹・中澤 努・平田大二・廣木義久・星 博幸  
以上、理事15名

監事：藤本光一郎・山本正司 以上、監事2名

### 1号議案 2019年度事業報告・2019年度決算報告のうち「2019年度決算報告」

2019年度決算概要は5/23にすでに報告済み

であるため、運営財政部会担当の緒方理事から補足と一部修正の報告があった。会費収入について、5月の総会報告からの修正報告がなされた。また、2019年山口大会は黒字であったこと、全体としては赤字であることの報告があった。

その後、藤本監事幹事より会計監査の実施報告があった。、2019年度における会計について、適正、的確に処理されているとの報告があった。

2019年度決算報告について、特に質疑応答はなく、全会一致で本議案は承認された。

以上をもって審議を終了し、松田博貴会長の挨拶の後、議長は閉会を宣言した。

2020年7月4日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2020年度総会「継続会」

総会議長 内藤一樹  
総会副議長 細矢卓志  
議事録署名人 大坪 誠  
議事録署名人 大谷具幸  
代表理事 松田博貴  
理事 齋藤 真

## 2019年度事業計画に照らした 本年度実績概要

### 1. 学術大会

【山口大会】学術大会が、学問の発展に寄与する場となり、本学会の社会におけるプレゼンス向上の場となるよう、山口大会（山口大学吉田キャンパス；2019年9月23～25日）では、自然災害と地域地質の関係に着目した大会を LOC と共に目指した。大会前日に台風17号の来襲によりプレ巡検が中止になったものの、その他の行事は大きな支障もなく盛況裡に開催された。また産総研との共催の地質情報展（9月21～23日）ならびに市民講演会（9月22日）に山口大学学生会館にて開催した。

【大会運営】大会準備に関わる行事委員会と事務局の業務軽減に向けて、参加登録ならびに講演要旨のあり方について検討し、講演要旨電子化を提案した。

### 2. 学術研究活動

【GSSPシンポ】現在、耳目を集めるGSSPについて、地質学会のこれまでの国際層序に関する取り組みやその意味・意義、ならびに詳細の再確認を目的として、「GSSPシンポジウム～国際層序の意味と意義～」(産総研共同講堂；2019年11月23日)を、産業技術総合研究所・日本古生物学会と共同して開催した。基

調講演1件、講演6件、ならびに総合討論が行われ、参加者は約80名であった。

【学術研究】地球惑星科学系最大の学会として学問発展に寄与するために、昨年度、学会主導で内閣府に提案した「学術大型研究計画」が、大型研究（マスタープラン2020）に内定した。

### 3. 出版活動

【地質学雑誌】地質学雑誌では、125周年記念特集号の出版を継続して実施した。また通常論文の投稿も若干増加したこともあり、地質学雑誌を安定して出版することができた。ただし、通常論文だけで月刊を維持するのは、引きつづき厳しい状況にある。また著作権同意書等の英語版整備を行った。

【Island Arc 誌】Island Arc 誌の出版を継続した。本年のIFは0.893であり、昨年と比較しわずかながら上昇した。さらなるIFのアップのために、理事を始めとする学会幹部からの投稿を促すと共に、特集号等企画など種々の観点からの検討を実施した。また受理後掲載までの時間を短縮するために投稿規定の一部を変更した。

【ニュース誌】ニュース誌を毎月刊行し、最近の研究動向などの学術内容の提供に努めた。

【ジオルジュ】公式広報誌であるジオルジュについては、より多くの市民の目に触れるようフリーペーパー化の推進を図ると共に配布地点を拡充した。同時に協賛記事の強化により経費の圧縮策が講じられた。

### 4. 地質災害対応

【災害対応】地質災害に関して、学会HPを通じて会員ならびに関連機関の調査報告会の情報を積極的に発信した。

【災害情報発信】災害に関する地質学的知識や情報の市民への提供・発信に向け、「ぼうさいこくたい 2019」（2019年10月19～20日；名古屋コンベンションセンター他）に参加した。来年度は広島で開催予定である。

### 5. 普及活動

【フォトコンテスト】第10回惑星地球フォトコンテストを開催し、昨年と比較し減少したものの力作ぞろいの338点の応募作品の中から、最優秀賞をはじめ12点の入選作品を選出し、総会時に表彰式を行った。

【地学オリンピック】地学オリンピックについては、地学オリンピック支援委員会を中心に継続的に支援を行っているところであり、今年度は第13回韓国国際大会（2019年8月26日～9月3日）と来年度の第14回地学オリンピック（ロシア）の予選となる第12回日本大会への協力を行った。第13回韓国大会では、日本代表4名が全員金メダルに輝き、国別順位で1位となった。特別派遣の生徒1名も金メダル相当の素晴らしい成績を取めた。加えて、若年層の地質・地球への興味喚起を目指し「小学生のための地学オリンピック：チャ



レンジ地球」を関西地区（山陰海岸ジオパーク他：11月10日・12月5日）において開催した。

【サマースクール】地震火山子どもサマースクールについても継続的に支援を行っている事業であり、サマースクール連企画委員会、運営委員会に協力している。今年度の第20回地震火山子どもサマースクール～研究者と丹後を巡る2日間～（2019年8月10日～11日）には、20名の小・中・高校生の参加があった。また第21回地震火山子どもサマースクール（浅間山）の開催に向けて協力を進めている。

【県の石】「県の石」に関する一般向け書籍の出版に向けて、井龍元会長を中心としたプロジェクトチームが編集作業を行った。

【地質の日】地質の日については、本部および各支部において普及事業を実施し、また共催・後援等を行った。

【その他】昨年度採択された文部科学省科学啓発ポスター「一家に1枚のポスター」（テーマ：日本列島7億年）について、関係機関ならびに会員に配布し、地質学の社会への普及に努めた。また希望するマスコミ関係者へのジオフラッシュの配信を実施した。

## 6. 社会貢献

【JIS関係】主導的に支援してきた日本標準規格(JIS A0204)およびベクトル数値地質図に関する日本標準規格(JIS A0205)の改正を実施した。

【CPD関係】企業会員向け「土質・地質技術者の生涯学習ネット(GEO-Schooling Net)」を利用し企画する講習会・見学会の情報を提供し、参加者へはCPD証明書を発行した。また就職支援プログラムを山口大会にて企画・実施した。

【ジオパーク】ジオパークについては、平田副会長・ジオパーク支援委員会を中心に、新体制となったJGN（日本ジオパークネットワーク）およびJGC（日本ジオパーク委員会）への協力を進め、世界ジオパーク審査に関わる業務の一部を地質学会が実施した。

【情報発信】学術大会に関するプレスリリースや、「研究倫理」や「チバニアン」に関する会長声明等を発信し、地質学の社会的プレゼンスの向上に努めた。

## 7. 地学教育

【大学入試】令和2年度大学入試センター試験（本試験）の地学関連科目「地学基礎」「地学」問題を確認し、「令和2年度大学入試センター試験の地学科目に関する意見書」を取り纏め、入試センターに送付した。

【Web教材】昨年度「ゆめ基金」助成金により小～中学生を対象として作成された教育用Web教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう」について、パンフレットを配布する（約1,000枚）と共にデモンストレーション等を実施し、教材のユーザビリティの検証と普及に努めた。

## 8. 国際連携

【学術交流協定】学術交流協定を締結している大韓地質学会、タイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会、台湾地質学会との交流を継続するとともに、タイ地質学会とモンゴル地質学会とは学術交流協定を更新する手続きを行った。

【国際交流】大韓地質学会（チェジュ：2019年10月23日～26日）に国際交流担当理事が出席・講演した。また大韓地質学会執行部との会合において、今後の両国間の国際交流について意見交換がなされ、学術研究分野における実質的な連携と2024年開催の万国地質学会（IGC）における巡検策定に具体的に着手することで合意した。

## 9. 学会運営

【事業運営】昨年度に行った学会財政の見直しを踏まえた各事業の実行にあたり、事業目的の達成度と効果の確認を踏まえて各事業の健全化に努めた。また新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、支部例会や総会等の行事開催にあたっては適切な対応を求め、会員・一般参加者の健康、ならびに公衆衛生に配慮した。

【地質学雑誌出版事業】地質学雑誌の出版事業については、会員へのアンケート調査の結果をもとに、ニュース誌を含む出版物の発行やその他の会員サービスや会員数維持等の観点から、発行回数等の出版形態ならびに電子化について総合的視点に立って出版・財務戦略の検討を実施した。

【会員サービス】会員に対しては、ジオフラッシュやHP、ニュース誌を通じて、さまざまな参加行事の広報を継続的に行ってきた。また企業会員へのCPD証明書の発行や学生・院生会員への就職支援プログラムの開催等の活動を通じて学術発表以外のメリットの増大を目指した。

【学会組織】学会を構成する多くの委員会について、その活動状況を把握し、形骸化あるいは重複している委員会等については業務内容と責任の明確化と委員会の整理・統合を検討した。

【事務局体制】学会事務局について、業務内容分担を再確認すると共に、新たな組織・人員体制による業務の整理統合と効率化、ならびに諸規則の整備による継続的な事務局業務の推進を実施した。

# 2019年度事業経過報告

## 1. 報告事項

### 1) 会員の動静

2020年4月末現在の会員は、賛助会員27社、名誉会員44名、正会員3369名（うち院生割引72名、学部割引1名）、会員総数3440名、2019年4月末と比べて74名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者：120（賛助0社、正会員120名〔うち院生割引87名、学部割引13名〕）

退会者：115（賛助0社、正会員115名〔うち院生割引7名、学部割引0名〕）

除籍者：61（正会員61名）

逝去者：18（名誉会員8名、正会員10名）

名誉会員：武田裕幸(2019/5/26)、木村敏雄(10/11)、猪郷久義(11/22)、島津光夫(11/26)、大八木規夫(2020/2/27)、柴田賢(2/28)、石原舜三(3/2)、諏訪兼位(3/15)

正会員：野田睦夫(2019/4/2)、高橋昭紀(4/25)、白石正一(5/1)、木船清(5/11)、塚田有一郎(7/17)、黒川勝己(9/7)、齋藤保人(9/19)、橘彰一(10/1)、伊藤英之(12/4)、加藤久美(2020/4/15)

## 2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

＜2019年度定時総会＞

日時：2019年5月25日 14:00～15:30

会場：北とびあ第2研修室

議決権のある社員総数 99名（定足数：50名）、議決権の数 99個出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）87名、議決権の総数 87個、出席理事 36名、出席監事 2名

審議事項：1) 2018年度事業報告・決算報告、2) 2019年度事業計画、3) 2019年度予算案、4) 名誉会員の選出

いずれの議案も賛成多数で承認。

＜委員会等の開催＞

・執行理事会（13回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載  
・理事会（4回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載  
・その他委員会（メールによる会議を含め、随時開催）

## 3) 学会の行事・事業

1. 日本地質学会第126年学術大会（山口）

会期：2019年9月24日～26日

会場：山口大学吉田キャンパス

参加者：730名

・一般発表申込：569件（口頭334件、ポスター235件）  
・シンポジウム：2件(S1.鳥弧ダイナミクス研究のフロンティア：口頭7件／S2.西日本で多発する土石流災害：口頭6件)  
・アウトリーチセッション：ポスター2件  
・小さなEarth Scientistのつどい：第17回生徒地学研究発表会：11校13件  
・緊急展示ポスター：なし  
・優秀ポスター賞の授与：14件  
・巡検：実施5コース(ポスト:B,C,D,F,G,H)、中止2コース(プレ:A,E)  
・ランチョン：15件  
・夜間小集会：9件

＜日本地質学会各賞の授与式・記念講演会＞  
日時：9月23日（月・祝）15:30-17:15、会場：大学会館(山口大学吉田キャンパス内)

- ・来賓挨拶 田中和広氏（山口大学副学長）
- ・日本地質学会国際賞受賞ビデオスピーチ：Rbert J. Stern
- ・日本地質学会小澤儀明受賞スピーチ：齋藤誠史「いろいろ考えてみるーイベント研究のその先へー」
- ・日本地質学会賞受賞講演：多田隆治「高精度高解像度完全連続長尺層序と高解像度連続物理化学測定による古物質循環変動復元のすすめ」

#### <年次行事>

- ・地質情報展2019やまぐち 一めぐってみよう！大地のかんー 2020年9月21日(土)-23日(月・祝)、会場：大学会館、来場者：948名
- ・市民講演会「防府土砂災害から10年ー災害を経験して次に活かすー」2020年9月22日(日)、会場：大学会館、参加者：74名、講師：判野充品、宮川千明、河内義文
- ・若手会員のための業界研究サポート 2020年9月25日(水) (8団体出展) 会場：大学会館
- ・小さなEarth Scientistのつどい（デジタルポスター審査を実施）2020年9月23日（月・祝）、11校13件、うち優秀賞3件、奨励賞4件

#### 2. 地質の日ほか、本部イベント

- ・街中ジオ散歩 in Hamura「東京の水インフラと地形・地質ー羽村取水堰とその周辺ー」徒歩見学会（日本応用地質学会との共催行事）：5月12日(日)、参加者27名、講師：山崎晴雄
- ・第10回惑星地球フォトコンテスト表彰式：5月23日(土)、北とびあ、審査委員長：白尾元理
- ・惑星地球フォトコンテスト入賞作品巡回展示（2019年4月ー2020年3月）東京パークスギャラリー（上野グリーンサロン内、台東区上野公園）[第9,10回入選作品] 深田研一般公開2019（深田地質研究所）10月6日(日)[第10回入選作品、過去のジオ鉄賞作品]
- ・蒲郡生命の海科学館 2020年3月25日（水）ー6月25日（木）[第10回入選作品]（※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5/31まで開催中止）
- ・小学生のための地学オリンピックーチャレンジ地球2019ー

<東京会場>クイズ30（12/15(日)、筑波大学東京キャンパス文京校舎）、ジオパーク探検(11/23(土)、筑波山地域ジオパーク)、参加者+保護者：3組7名、講師：久田健一郎

<大阪会場>クイズ30（12/15(日)、大阪教育大学）、ジオパーク探検(11/10(日)、山陰海岸ジオパーク)、参加者+保護者：3組8名、講師：川村教一

申込人数が少なかったため、内容を一部変更して実施。東京会場のジオパーク探検(11/23)は雨天のため中止。

クイズ30は各会場2名（合計）4名が参加。上位3名に会長名の表彰状(金賞、銀賞、銅

賞)を授与。

- ・GSSPシンポジウムー国際層序の意味と意義ー(産総研地質調査総合センター、日本古生物学会との共催)11月23日(土)、産総研つくば中央 共用講堂、参加者：約80名、第1部：国際層序について、講師：北里洋、天野一男、齋藤 真、第2部：年代層序単元・地質年代単元とGSSP、講師：斎藤文紀、岡田 誠、羽田裕貴、松岡 篤
- 3. Web教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう」の利用実績

- ・教材URLへのアクセス数(2019年度)：24,234件
- ・会員や団体からのWeb教材ほかポスター、パンフレット、ハンドブックの利用申請数：12件
- 配布内訳：ポスター(23枚)、パンフレット(850枚)、ハンドブック(ルーベ付き、1,270冊)

4. 地質学者に答えてもらおう（2012年3月運用開始）

現在、新規の質問受付は一時停止中。これまでの質問の主なものとその答えは学会HPにて公開中。

#### 4) 出版物の刊行

##### <地質学雑誌>

- ・125巻 巻4号(2019年4月)ー126巻3号(2020年3月)を刊行した。総ページ数は724ページ。

##### <日本地質学会ニュース>

- ・22巻4号(2019年4月)ー23巻3号(2020年3月)を発行した。総ページ数は312ページ。

##### <Island Arc>

- ・Island Arc編集委員会の編集により、Wiley社よりVol.28, Issue 3ーIssue 6, Vol.29, Issue 1を刊行した。2020年3月末までの総ページ数は518ページ。※Volume 29よりIssue1のみの出版形態に変更。

##### <ジオルジュ>

- ・前期号（2019年5月）、後期号（同年11月）各20ページを発行。

##### <その他>

- ・「一家に1枚ポスター日本列島7億年」の増刷(A2, A3, 各版1000枚)。
- ・「はじめての地質学」(ベレ出版) 2020年3月16日増刷(第4刷、1000部、累計8000部)。
- ・「やばすぎ！古生物図鑑」(宝島社、日本地質学会監修) 2019年11月28日発行。

#### 5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員。継続してそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合：評議員（松田博貴）、連絡委員（緒方信一）、プログラム委員（板本拓也、納谷友規）、ダイバーシティ推進委員会（堀 利栄）、環境・災害対応委員会-災害の委員（川畑大作）、環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井 衛）自然史学会連合（齋木健一、12月から兼子尚知(産総研)に交代）、土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD）(佐々木和彦)、JABEE運営委員(竹内真司)、地質の日事業推進委員会（委員長：平田大二）、日本ジオパーク委員会：調査運営部会委員（利光誠一）、(NPO)地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人）、地震火山サマースクール運営委員（柴田伊廣）、防災学術連携体連携委員（齋藤 真(常務理事)、松田達生(地質災害委員長)）など。

6) その他報告事項（主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2019年度内において承認したもの）※そのほかはNews誌、HPに掲載の執理事会議事録、理事会議事録参照。

<他学協会などからの依頼>

※2020年2月以降の各行事は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により会期変更などあり。

- ・日本粘土学会第63回粘土科学討論会（2019/09/10-12、埼玉大学）の後援。
- ・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2019」(2019/6/8ー2020/2/16、全国55会場)の後援。
- ・三浦半島活断層調査会 地質の日記念講座「三浦活断層群主部、北武断層を歩く！」(2019/5/4)の後援。
- ・三浦半島活断層調査会「荒崎海岸の地形と地質を学ぶ」(2019/6/9)の後援。
- ・ジオ神奈川(代表：蟹江康光)、地質の日記事「城ヶ島 火山と地震痕跡を見る」(2019/5/18)の後援。
- ・2019年度一般社団法人日本地球化学会第66回年会(9/17-19、東京大学)の共催。
- ・新潟大学旭町学術資料展示館サテライトミュージアム企画展「アンモナイト展」(7/20-8/31、新潟大学駅南キャンパスときめいと)の後援。
- ・朝日新聞社主催「第17回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2019)」の後援（作品募集期間：9/3-10/7）。
- ・日本ゼオライト学会「第35回ゼオライト研究発表会」(12/5-6、タワーホール船堀)の協賛。
- ・三浦半島活断層調査会観察会「深海から生まれた城ヶ島」(10/6)の後援。
- ・北淡国際活断層シンポジウム2020(2020/1/14-17)の後援。
- ・こどものためのジオカーニバル企画委員会(代表者：廣木義久、第20回こどものためのジオカーニバル（11/2-3、大阪市立科学館）の後援。
- ・深田地質研究所「深田研一般公開2019」(10/6)の協力（フォトコン写真の貸し出し）。
- ・石油技術協会「令和元年度秋季講演会」(10/17、東京大学小柴ホール)の協賛。
- ・フォッサマグナミュージアム特別展「日本列島の歴史を変えた石展」(10/15-12/1)の後援。
- ・NPO法人地学オリンピック日本委員会、地球科学普及講演会「地球をぶらり」(11/9、城西大学)の後援。
- ・第29回環境地質学シンポジウム(11/29-30、日本大学)の共催。



・原子力総合シンポジウム2019 (12/2, 日本学術会議講堂)の共催。

・日本アイソトープ協会「第57回アイソトープ・放射線研究発表会」(2020/7/3-9, 東京大学弥生講堂)の後援。

・神奈川県立生命の星・地球博物館, 2019年度企画展「 Gondwana 岩石が語る大陸の衝突と分裂—」(2020/2/29-8/31)の共催。

・第17回岩石-水相互作用国際会議(2021/8/2-7)の共催。

・JAMSTEC外部講演会「もっと知ろう, おもしろ海の火山学」(2020/2/23, 国立科学博物館日本館2階講堂)の後援。

・水戸市立博物館特別展「水戸の大地の成り立ち—水戸140億年史—」(2020/2/9-3/1)の協力(フォトコン写真の貸し出し)。

・科学教育研究協議会「第67回全国研究大会(福島大会)」(会期延長, 福島県伊達市立霊山中学校)の後援。

・蒲郡市生命の海科学館企画展示「第10回惑星地球フォトコン入賞作品展(2020/3/25-6/28(臨時休館: 4/11-5/31))」の後援。

・日本学術会議公開シンポジウム「チバニアン, その学術的な意義」(会期延長)の共催。

・全国地質調査業協会連合会・経済調査会, 改訂「設計業務等標準積算基準書の解説」説明会(2020/6月-9月(会期変更の可能性あり), 全国)の後援。

・Techno-Ocean2020 (2020/10/1-3, 神戸コンベンションセンター)の協賛。

・筑波大学朝永振一郎記念第15回「科学の芽」賞(作品募集期間: 2020/8/17-9/19)の後援。

・第36回ゼオライト研究発表会(2020/11/19-20, 富山国際会議場)の協賛。

・藤原ナチュラリストーリー振興財団, 設立40周年記念公開シンポジウム「海と地球の自然史」(2020/10/10, 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス)の後援。

＜他学協会などへ依頼＞

・第11回惑星地球フォトコンテストについて, 後援および協賛を依頼し承諾された。( )は後援および協賛金。後援: 日本ジオパークネットワーク(3万円), 深田研ジオ鉄普及委員会(1万円) 協賛: 株式会社ウィンディーネットワーク(5万円)

・「一家に1枚ポスター 日本列島7億年」について, 東北大学との連名で文科省に対し成果利用申請を提出し承認された(A2, A3, 各版とも1000枚増刷)。

・学会教材の普及・広報活動: WEB教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう」パンフレットと一家に1枚ポスター「日本列島7億年」について, 学会が後援した次の2つの行事において配布協力を依頼し承諾された。

新潟大学企画展「アンモナイト展」(7/20-8/31)

科学教育研究協議会全国大会(8/9-11, 福岡)

・小学生のための地学オリンピックチャレンジ地球2019—への後援を依頼し承諾され

た。

＜東京大会・大阪大会共通＞(後援)日本地学教育学会, (特別後援)NPO地学オリンピック日本委員会

＜大阪大会のみ＞(後援)山陰海岸ジオパーク推進協議会, 豊岡市, 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科

・第127年学術大会: 名古屋大会のセッション共催: 堆積地質部会に関わる4セッションについて, 日本堆積学会, 石油技術協会探鉱技術委員会と日本有機地球化学会へ共催を依頼し承諾された。

R9: 堆積物(岩)の起源・組織・組成／R10: 炭酸塩岩の起源と地球環境R11: 堆積過程・堆積環境・堆積地質／R12: 石油・石炭地質と有機地球化学

7) 支部の活動

＜北海道支部＞

1. 支部例会(6/15(土)), 個人講演7件, 招待講演1件, 参加者: 36名。招待講演: 「2018年北海道胆振東部地震によって発生した斜面変動」講師: 田近淳(ドーコン(株)/道総研フェロー)

2. 「地質の日」記念展示: 失われた川を尋ねて『水の都』札幌(4/27(土)～6/16(日), 北海道大学総合博物館), 主催: 「地質の日」展示実行委員会・北海道大学総合博物館, 共催: 日本地質学会北海道支部・産総研地質調査総合センター・道総研地質研究所・北海道博物館・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会, 後援: 北海道教育委員会・札幌市教育委員会, 協力: 北海道大学埋蔵文化財調査センター・山の手博物館・サイエンス・コンソーシアム札幌(札幌科学談話会・札幌市中央図書館・札幌市博物館活動研究センター

関連する市民セミナー

・第一回「『水の都』札幌—コトニ川を尋ねて」(5/11(土)), 講師: 宮坂省吾(北海道総合地質学研究センター), 参加者: 120名。

・第二回「『水の都』札幌—身近に残る水の痕跡—」(6/9(日)), 講師: 古沢仁(札幌市博物館活動センター), 参加者: 90名。

関連する巡検

・「街中ジオ散歩 in Sapporo「コトニ川」を歩く」(5/25(土)), 案内者: 宮坂省吾(北海道総合地質学研究センター)・内山幸二(山の手博物館), 参加者: 24名。

＜東北支部＞

1. 見学旅行「能代・八峰・白神地域の地質」(6/22(土)～23(日), 一泊二日。能代, 八峰, 白神地域に分布する段丘群と変動地形, 火山岩類, 深成岩類, マイロナイト, 十二湖大規模地すべり地形などを見学。), 案内人: 藤本・林・星出・西川, 参加者: 11名。

2. 2020/2/29(土)～3/1(日)にかけてシンポジウム3講演, 口頭発表15件, ポスター発表7件を予定していたが, 新型コロナウィルス

の影響を考慮して2/23に中止を決定。

＜関東支部＞

1. 巡検関係

・筑波山地域ジオパーク巡検2019年10月20日(日), 講師: 筑波大学 久田健一郎, 杉原薫(敬称略, 以下同じ), マイクロバス使用, 参加者20人

・神津島巡検2019年11月30日(土)～12月1日(日), 共催: 首都大火山災害研究センター, 講師: 小林 淳(静岡県富士山世界遺産センター)・村田昌則(首都大学東京火山災害研究センター)・鈴木毅彦(同)・西澤文勝(神奈川県立生命の星・地球博物館), 参加者14人(ジオガイド2人)

・(中止)アウトリーチ巡検「チバニアン」2019年11月24日(日)台風19号災害のため延

・期→2020年3月22日(日)コロナ感染防止のため中止, 講師: 岡田 誠(茨城大学教授)

・(中止)大磯丘陵火山灰巡検2020年2月16日(日)雨天のため中止, 平塚市土屋地区, 講師: 笠間友博(箱根ジオミュージアム)

2. シンポジウムなど

・シンポジウム「関東のテフラ—最近の年代観と供給源—」2020年1月25日(土), 北区北とびあ, 講師(講演順): 小林 淳(静岡県富士山世界遺産センター), 笠間友博(箱根ジオミュージアム), 中里裕臣(農研機構), 中澤 努(産総研), 田村糸子(首都大学東京), 水野清秀(産総研), 鈴木毅彦(首都大学東京), 参加者131人, 協賛: (株)ダイヤコンサルタント, (株)地圏総合コンサルタント, (株)地盤試験所

・地質技術伝承会「石油地質分野におけるunconventionalあるいは非石油的な話」講師: 石油資源開発株式会社 横井 悟 技術本部フェロー 協力: (一社)東京都地質調査業協会, 参加者43人

・共催シンポジウム(主催: 筑波山地域ジオパーク推進協議会)「研究の最前線: 中更新世以降の関東平野北東部の地質と地形発達」, 10月19日(土), つくば市役所コミュニティ棟第一会議室, 参加者85名

3. フィールドキャンプ

・2019年8月19日(月)～24日(土)千葉県鴨川市東大千葉演習林, 京大との共同実施, 協力: 石油資源開発株式会社, 株式会社ダイヤコンサルタント, 参加学生2人, 修了後2名入会。

4. サイエンスカフェ「マンネン×シバハラ×立体地図(ブラマンネン2)」

・2019年6月9日(日)15-17時(14時半開場)会場: Bar de 南極料理人 Mirai 関内駅(JR根岸線・横浜市営地下鉄), 参加27人, ゲストスピーカー: 萬年一剛氏(神奈川県 温泉地質研究所)・芝原暁彦氏(地球科学可視化技術研究所)・ファシリテータ: 岡山悠子(科博SCA)



## 5. 総会

・2019年4月13日(土)北区赤羽会館、出席者33名+委任状71名で成立、活動・会計報告、活動計画・予算案 承認された

6. 支部功労賞2件: 東京大学千葉演習林、相模原市立博物館

7. 幹事会(月1回程度の間隔で実施: 4月13日, 5月21日, 6月19日, 7月24日, 9月3日, 10月18日, 11月12日, 12月11日, 1月23日, 2月・3月はコロナウイルス感染拡大防止のため中止)

### <中部支部>

1. 日本地質学会中部支部総会、シンポジウム(6/29(土)、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークとそれを取り巻く活動)、研究発表会(口頭・ポスター)、巡検(6/30(日)、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク見学)。

2. 応用地質学会中部支部主催「応用地質学講座「現地踏査実習」」(10/11(金))への後援、及び講師を派遣。

### <近畿支部>

1. 第36回地球科学講演会「OSL年代-砂粒に刻まれた時の記憶」(4/20(土)、日本堆積学会・地学団体研究会大阪支部・大阪市立自然史博物館との共催、大阪市立自然史博物館講堂。)講師: 田村 亨(産業技術総合研究所)、参加者 150名

### <四国支部>

1. 第19回日本地質学会四国支部講演会・総会(12/14(土)、香川大学研究交流棟5階研究者交流スペース(幸町北キャンパス内))、参加者: 69名、個人講演: 口頭発表9件(特別講演1件、一般講演8件)、ポスター発表8件。

### <西日本支部>

1. 2019年5月11日: 地質の日熊本大会(共催)、熊本博物館企画展: 身近に知る「くまもとの大地」(5月12日~6月2日) <https://kumamoto-city-museum.jp/exhibition/245/615/512-3>

2. 2019年6月10-11日: 山口大学地質講習会(CPD講習会)(後援)

3. 2019年10月26(土): 山口大学サイエンスワールド(後援) <https://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/ja/community/sw/2019.html>

4. 2020年2月28日: 「支部役員会」新型コロナウイルス対応で中止

5. 2020年2月29日: 「支部例会・総会(北九州いのちのたび博物館)」新型コロナウイルス対応で中止。講演要旨提出者の一部は希望により「みなし講演」とした。

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項  
1) 理事会議長・副議長の選出 議長: 杉田律子、副議長: 道林克慎

2) 各賞選考委員会委員長は、委員間の互選により、亀尾浩司理事が委員長に選任された。

3) 論文不正問題について、4/4付、5/17付で会長声明を出した。当該会員に対しては、6/6付文書をもって嚴重注意を行った。

4) 東赤石山の山小屋「赤石山荘」の要望書(4/6付)を、新居浜市および愛媛県へ6/14に提出。

5) JGN事務局より受託のユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請にかかる机上審査について、審査委員3名を選出し、推薦した。書類審査を依頼。

6) 地学オリンピック日本委員会より、第12回オリンピック予選・本選の出題委員に委員1名を推薦。

7) 「チャレンジ地球2019」—小学生のための地学オリンピック(日本地質学会地学オリンピック支援委員会主催)の実施について、東京・大阪2会場での実施計画を承認。

<東京会場>クイズ30(12/15(日)、東京大学)、ジオパーク探検(11/23(土)、筑波山地域ジオパーク)

<大阪会場>クイズ30(12/15(日)、大阪教育大学)、ジオパーク探検(11/10(日)、山陰海岸ジオパーク)

8) 学研より、図鑑LIVE『岩石・鉱物・化石』(2020年6月発行)への「県の石」紹介記事の掲載希望を承諾。

9) GSSP(千葉セクション)認定申請にかかわる対応について、顧問弁護士と相談し、地質学会はあくまでも学術的重要性を鑑みた立場から見解を発信する。

10) 「地質学者に答えてもらおう」のHP質問窓口を一時停止した。遅延している未回答分の対応は広報(坂口理事・小宮理事)および執行理事会を中心に回答を作成する。今後は理事を中心に回答者リストを作成して割り振る。生涯教育委員会も協力する。

11) 「千葉セクション」に関する声明を、会長名にて8/15付、学会HPに掲載。

12) ジオルジュの販売先営業のため、ジオパーク全国大会おおいだ大会へのブース出展を承認。

13) 選挙の開票立会人(2名)の選出。金澤直人会員、尾張聡子会員。

14) 記念日協会より「地質の日」(5/10)の登録確認があり、登録を維持するための『記念日登録確認書』を返信。

15) 地球惑星連合の2020年プログラム委員の推薦:(正)板木拓也/(副)納谷友規

16) 標準層序に関する解説「GSSPとは何か?」を学会HPとNews誌に掲載。

17) 「国際年代層序表」が2019年5月に改訂され、日本語版を更新。

18) 標準層序に関するシンポジウム「GSSPシンポジウム~国際層序の意味と意義」(11/23(土))の開催を承認。

19) 事務局運営規則について、事務局長などの職位を設け、職務権限を定めることを承認。

20) 事務局旅費規則について、国家公務員の旅費規程を準用していたものを規則として定めることを承認。

21) 地質技術者教育委員会の委員選出(任期: 2021年6月30日まで)。委員長: 天野一男、副委員長: 佐々木和彦、委員(JABEE): 竹内真

司、金川久一、小荒井 衛、林 広樹、委員(CP D): 加藤猛士、細矢卓志、亀高正男、藤井正博

22) 2020年度選挙管理委員会の委員選出。委員長: 飛田健二、委員: 天野敦子、上栗伸一、吉田健太、野崎 篤

23) 「地質学論集」復刊の要望にたいして、論集廃止の経緯などを考慮し、地質学雑誌特集号として提案することを回答した。

24) 宝島社からの古生物図鑑の監修依頼を承諾。書籍発行後、韓国語翻訳版について宝島社から出版計画があり、承諾。

25) geo-Flashのマスコミ等への配信希望について、地質学の普及に関わると判断される場合は、配信登録を認める(配信先の情報を確認する)。文部科学省記者クラブにたいして配信希望を募る。

26) 日本技術者教育認定機構(JABEE)より、創立20周年記念シンポジウムおよび懇親会(11/26)への招待を受け、佐々木副会長と天野理事(地質技術者教育委員会委員長)が出席。

27) 大韓地質学会との学術交流のため、ウォリス理事(国際交流担当)が学術大会(10/23-26、済州島)に参加。

28) 「地球にわくわく未来ガイド」(地学オリンピック予選参加者配布冊子)への広告掲載依頼があり、WEB教材の広告を掲載。

29) 名古屋大会の普及事業(市民講演会、地質情報展)にたいし、科研費(研究成果公開促進B)を申請した。結果は採択。

30) 2019年度内の部会長の交代を了承。(海洋)小原泰彦

31) 名誉会員推薦委員会委員の選出。委員長: 佐々木副会長

・階層別委員(4名): 官公庁: 渡部芳夫、小中高教員: 米澤正弘、会社: 向山 栄、大学: 木村 学

・職責委員(各支部長7名): 竹下 徹、林 信太郎、山崎晴雄、大藤 茂、三田村宗樹、西山賢一、早坂康隆

・理事会推薦委員(1名): 保柳康一

32) 次期の外部監事候補者の推薦について、現監事の山本正司氏を推薦することを承認。

33) 地質学雑誌の投稿にかかる保証書、著作権譲渡等同意書、編集規則、著作物利用規定の英訳版を更新および新規作成した。

34) 保証書および著作権譲渡等同意書(和文)の署名・捺印に関する不統一な記述を署名(捺印不要)に統一することを承認。

35) 第三種郵便の規定にそった広告掲載について、地質学雑誌の付録であるNews誌でのみ広告を募集・掲載していたが、郵便審査事務センターより、「第三種郵便物承認定期行物」の規定に則り、付録(News誌)の記事中と表3(裏表紙の内側)への広告掲載は認められないとの指摘を受けた。126巻1号(2020年1月)以降の広告の募集・掲載は次のように対応する。

・News誌: 表4(カラー1頁)

・地質学雑誌: 記事(白黒、サイズ応相談)

・News誌、地質学雑誌とも、表2・表3への広告掲載はしない。

36) 各賞選考委員会の下に各賞選考検討委員会を設置し、日本地質学会賞、国際賞、小澤儀明賞選考の諮問をした。

・(指定委員)：松田博貴(委員長)、ウォリスサイモン、多田隆治、山路 敦、大藤茂、伊藤 慎、海野 進、田村芳彦、武藤鉄司、渡部芳夫、(執行理事会推薦委員)：磯崎行雄

・Island Arc賞については、Island Arc編集委員会に選考を諮問した。

37) 啓林館より高等学校用教科書「地学基礎」(教科書、指導書、デジタル教科書)への「県の石」のwebページへの紹介文およびリンクの掲載希望を承諾。

38) 寺西石材(株)(茨城県桜川市)からの学会ロゴマーク利用申請を承諾。

39) 2020年年会会場予約が完了し、大会日程が確定した。2020年以降の開催地は次の通り。

2020年 中部支部：名古屋大学 (2020/9/9(水)~11(金))

2021年 関東支部：早稲田大学の予定で調整中(会場予約は会期1年前から)

40) 防災学術連携体より「低頻度巨大災害シンポジウム(3/18)」の発表募集にたいし、会員に発表を募ったところ1件の応募があり、地質学会からの発表として申込した。林 信太郎会員、発表タイトル「十和田火山における想定大規模噴火と社会対応の問題点」

41) (独)大学改革支援・学位授与機構からの要請により、専門委員(国立大学教育研究評価委員会専門委員および機関別認証評価委員会)候補者として、会員5名を推薦。

42) 2020年度山田科学財団研究助成について、1件の推薦を承認。

43) 完新世後期Meghalayanの日本語(カタカナ)表記は「メガラヤン」とする。

44) これまで、LOCが単独で行ってきた学術大会の広報は、名古屋大会からLOCと広報委員会が協力して行う。

45) 読売KODOMO新聞より「県の化石」の取材協力について、井龍康文理事が対応した(2020年2月13日号、見開き特集面「発見！ につぼんの化石」に掲載)。

46) 日本学術会議、第24期学術の大型研究計画に関するマスタープランが公表され、地質学会提案の『地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築(計画番号94、学術領域番号24-1)』が選定された。

47) 新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、4/4の理事会はWEB会議システムを併用して開催する。

48) 第11回惑星地球フォトコンテストの審査結果(応募総数374点)：最優秀賞1件、優秀賞2件、ジオパーク賞1件、日本地質学会長賞1件、ジオ鉄賞1件、スマホ賞1件、入選5件、佳作13件を選出。

49) 大学入試センターにたいし「令和2年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書(2020/2/25付)」を提出。

50) 名古屋大会巡検案内書編集委員の交代。編集委員長：須藤斎(名古屋大)→栗原敏之(新潟大学)

副委員長：栗原敏之(新潟大学)→星博幸(愛知教育大)

51) 名古屋大会の運営委託はアカデミック・プレインズに決定。

52) 長期滞納会費を清算した会員にたいし、雑誌等のバックナンバーの送本作業量が過大であり、バックナンバーの長期保管も負担となっている。バックナンバーは原則として送付せず、希望者にのみ送付する。

53) 会員管理業務軽減のために、同時期実施の選挙実施年と会員名簿作成年の時期を見直し、次の名簿の発行を1年遅らせること、また名簿の在り方について検討開始を承認。

54) 「小さなESのつどい：小・中・高校生徒「地学研究」発表会」の名称を「日本地質学会ジュニアセッション」に変更することを承認。開催回数は「小さなESのつどい」から引き継ぐことで、継続性を担保する。

55) 地質学雑誌編集委員の編集体制の変更について、委員の退任と補充、新体制を承認(委員名は地質学雑誌(表2)参照)。

56) 2019年度事業実績報告・決算案(※注1)を承認した。【1号議案】

57) 2020年度事業計画および2020年度予算案を承認した。【3号議案、4号議案】

58) 名誉会員推薦委員会から候補者として提案された、西村裕二郎会員ならびに小松正幸会員を総会に推挙することとした。【5号議案】

59) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞授賞者を承認した。(推薦文は1号議案資料2参照)

・日本地質学会賞(1件)

山路敦(京都大学大学院理学研究科)  
対象研究テーマ：理論テクニクス研究による地殻変動史の解明

・日本地質学会 Island Arc 賞(1件)

授賞論文：Wakabayashi, J., 2017, Serpentinities and serpentinites: Variety of origins and emplacement mechanisms of serpentinite bodies in the California Cordillera. Island Arc, 26, e12205. <https://doi.org/10.1111/iar.12205>

・日本地質学会論文賞(1件)

授賞論文：星 博幸, 2018, 中新世における西南日本の時計回り回転。地質学雑誌, 124, 675-691.

・日本地質学会研究奨励賞(2件)

菊川照英(伊藤忠石油開発株式会社)  
対象論文：菊川照英・相田吉昭・亀尾浩司・小竹信宏, 2018, 鹿児島県種子島北部、熊毛層群西之表層の地質。地質学雑誌, 124, 313-329.

羽地俊樹(京都大学大学院理学研究科)

対象論文：Haji, T., Hosoi, J., Yamaji, A., 2019, A middle Miocene post-ift

stress regime revealed by dikes and mesoscale faults in the Kakuno date area, NE Japan. Island Arc, 28, e12304. <https://doi.org/10.1111/iar.12304>

・日本地質学会表彰(2件)

株式会社浜島書店

表彰業績：図書教材出版を通じた地学教育への貢献

鹿野和彦・斎藤眞・川畑大作・尾崎正紀・巖谷敏光・脇田浩二・湯浅真人・坂 幸恭(故人)・斎藤靖二・宮下純夫、産業技術総合研究所地質調査総合センター

表彰業績：地質図の標準化のためのJIS A 0204, JIS A 0205の制定・改正への貢献

60) 5月23日開催予定の総会議案(※注2)の承認。

61) 総会および総会前後の執行理事会・新理事会について、WEB会議による開催方法に変更することを承認。

※注1：2019年度決算報告の承認について：事務局在宅勤務等の影響により決算処理作業が延滞。また、遠方より監事を召集して会計監査を行うことが難しいため、次のように対応することとした。

①5/23総会では決算報告(概要暫定版)の承認を受けての概要説明のみを行う。7月上旬を目処に会計監査を行った後、総会の「継続会」(7月下旬~8月上旬を想定)を開催して決算報告(確定版)の承認を受ける。

②2019年度決算報告の監査は2019年度の監事が行い、「継続会」は2019年度の理事、代議員が行う。

※注2：決算報告(第1号議案 資料3)以外の議案に(第1~5号議案)は予定通り承認を受ける。

62) 総会前に開催予定の第11回惑星地球フォトコンテスト表彰式の中止を承認。

63) 学術大会の講演要旨集の電子化を検討するため、会員アンケートを実施(実施期間：2020/1/30-2/28)。回答数は125件(うち、賛成116件、反対9件)。アンケートの結果(ニュース誌およびgeo-Flash No.485にてアンケート結果を公開<http://www.geosociety.jp/faq/content0888.html>)を踏まえ、名古屋大会(※注3)からの試行的な実施を承認。

※注3：名古屋大会の開催可否について：4/4の理事会以降、4/16に発令された緊急事態宣言を受け、WEBでの臨時執行理事会(第10回(4/21)、第11回(4/22)、第12回(5/7))において、大会の開催について慎重に検討を重ね、現状では1000人規模の行事開催は厳しいと判断し、1年延期を次期新理事会で審議に諮る。

64) 次の33名の会員を50年会員として顕彰することとした。

相原延光、縣 孝之、石井輝秋、磯田喜義、上野将司、大原一男、小笠原憲四郎、奥野満、加藤碩一、兼岡一郎、神田 哲、佐藤興平、沢田順弘、白木敬一、滝沢 茂、滝沢洋雄、田沢純一、長沢元之、布目眞澄、原田知子、藤井敏嗣、藤岡換太郎、藤山 敦、



細谷正夫, 本間岳史, 松川正樹, 松田丞司,  
宮下純夫, 森 慎一, 屋鋪増弘, 山口佳昭,  
横山俊治, 和田秀樹

## 2020年度事業計画骨子

### (1. 学術大会)

学会活動の中核をなす学術大会が学問の発展に寄与する場となり、本学会の社会におけるプレゼンス向上の場となることを目指し、第127年学術大会(2020年名古屋大会)を2020年9月9日(水)～11日(金)に名古屋大学で開催する。

### (2. 学術研究活動)

地球惑星科学系最大の学会として、地質学および関連学問分野の進化・発展に寄与するため、学会が主体となって国内外の関連学術団体との連携を取りつつ大型研究等の立案・推進に努めると共に、学術会議等への提言などを通して地質学の継続的発展を目指す。また学術大会等を活用して将来へ向けての学術研究の幅広い展開を促進すると共に、専門性の高い部会と地域に根ざした支部との連携強化を図る。

### (3. 出版活動)

地質学雑誌およびIsland Arc誌の安定した出版と優れた論文の確保のため、引きつづき専門部会等と協力して投稿数増に努めることに加え、地質学雑誌では新規特集号の企画についても積極的に推進する。また受理後掲載までの時間短縮に向け、不断の努力を行う。

公式広報誌「ジオルジュ」については、ジオパークや地学オリンピック、博物館、スポンサー等との連携と財務構造のさらなる改善を進め、安定的な発行の維持しつつ、さらに市民への広範な広報に努める。

### (4. 地質災害対応)

頻発する地質災害の発生に迅速に対応する体制を再構築し、地質学的観点からの緊急調査・研究を推進すると共に、地質学会HPや地質災害ポータルからの情報発信に努める。

専門部会・支部、ならびに防災学術連携体としての学会活動を通じて、災害に関する地質学的知識や情報の社会への提供・発信を継続する。

### (5. 普及活動)

学会公式サイト(HP)、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス(SNS)「ちーとも」、広報誌「ジオルジュ」、リーフレット、フォトコンテスト、講演会などのサービスや機会について、より効果的・効率的に情報を発信できるよう再検討と充実を図ると共に、新たにTwitter等を活用して社会への情報発信を強化する。特にHPの再点検と充実を図る。

地学オリンピック、地震火山子どもサマースクール等への支援については対価に見合った資源投資のために再検討を行うとともに、「県の石」の継続的な普及と「日本地質学会選 県の岩石・鉱物・化石」の出版に向け学会をあげて取り組む。また地質情報展や「地質の日」事業の共催・支援を通じて、市民・地域レベルの啓蒙活動を推進する。

### (6. 社会貢献)

国際層序委員会の国際層序単元の日本語版の更新や層序単元登録の体制整備を進めるとともに、学会活動や地質学雑誌等の出版活動において地質標準の整備を促進する。また産・官・学の連携を進め、プレスリリースや学会声明等をタイムリーに発信することにより、地質学が社会の持続的発展に資することを発信し、社会的プレゼンスの向上に努める。地質技術者の継続教育については、CPD発行によるサービス強化を引きつづき図る。

### (7. 地学教育)

令和3年度大学入試センター試験(本試験)の地学関連科目の「地学基礎」「地学」問題を確認し、改善等が必要であれば意見書として取り纏め、入試センターに送付するとともに公表する。

「ゆめ基金」助成金事業で作成した小～中学生を対象とした教育用教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう」については、4年計画の最終年度にあたり、教材の普及にあたりと、教育現場・利用者からのフィードバックを元にユーザビリティを向上し、将来を担う若年層への地質学の普及・啓蒙に務める。

### (8. 国際連携)

学術交流協定を締結している大韓地質学会、タイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会、台湾地質学会との交流につい

て、より実質的な学術活動の連携を図る。

また大韓地質学会と連携してIGC2024(2024年釜山開催)での巡検の準備作業を進める。

### (9. 学会運営)

学会中期ビジョンにおける財務の中期計画と会員減少モデルに基づき、財務体質強化と各事業の健全化に努め、事業目的の達成度と効果の確認を踏まえた事業構成の見直しを行う。

地質学雑誌の出版事業については、2018年度に実施した会員アンケート結果を元に、各種会員サービスとのバランスをとりつつ中期的な出版・財務戦略を策定し、2020年度中の実施を目指す。

会員サービスについては、就職支援、地質技術者の継続的な専門教育(CPD)に連携した地域型講演会・ワークショップ等の従来型事業の継続に加えて、若手研究者およびその予備軍である学生・院生会員の育成のための新企画やシニア会員の活躍の場等を検討し、より魅力ある学会への拡充を図る。

学会組織については、2018年度より進めている各種委員会・組織の実態調査を踏まえ、業務内容・責任の明確化を進めると共に、学会規模に応じた委員会の整理・統合、効率化をめぐる。また学会事務局体制については、新たな人員体制の元での業務の整理・統合と効率化によって、継続的な事務局業務を進める。

※次頁より以下の財務諸表を掲載する。  
財務諸表

- ・2019年度収支決算(2019年4月1日～2020年3月31日)
- ・収支計算書(2019年4月1日～2020年3月31日)
- ・計算書類に対する注記(2019年度)
- ・収支計算書に対する注記(2019年度)
- ・財産目録(2020年3月31日現在)
- ・貸借対照表(2020年3月31日現在)
- ・正味財産増減計算書(2019年4月1日～2020年3月31日)
- ・会計監査報告書
- ・2020年度収支予算(2020年4月1日～2021年3月30日)

一般社団法人日本地質学会2019年度収支決算  
(2019年4月1日～2020年3月31日)

| 科 目                 | 2019年度予算   | 2019年度決算   | 差 異        |
|---------------------|------------|------------|------------|
| I 事業活動収入の部          |            |            |            |
| 1. 事業活動収入 1)        |            |            |            |
| 1) 基本財産運用収入         | 2,500      | 2,546      | -46        |
| 基本財産利息収入            | 2,500      | 2,546      | -46        |
| 2) 特定資産運用収入         | 2,700      | 2,000      | 700        |
| 特定資産運用収入            | 2,700      | 2,000      | 700        |
| 3) 会費収入 2)          | 40,050,000 | 40,321,500 | -271,500   |
| 正会員会費収入             | 37,000,000 | 37,392,500 | -392,500   |
| 正会員院生割引会費収入         | 1,400,000  | 1,264,000  | 136,000    |
| 正会員学生会割引会費収入        | 50,000     | 90,000     | -40,000    |
| 賛助会員会費収入            | 1,600,000  | 1,575,000  | 25,000     |
| 4) 事業収入             | 23,340,300 | 21,063,843 | 2,276,457  |
| ①出版事業収入 3)          | 8,610,000  | 10,384,221 | -1,774,221 |
| 雑誌販売収入              | 2,000,000  | 2,221,600  | -221,600   |
| 雑誌印刷負担金収入           | 2,000,000  | 3,407,800  | -1,407,800 |
| 別刷収入                | 500,000    | 489,967    | 10,033     |
| 広報誌販売収入             | 10,000     | 53,600     | -43,600    |
| 論集収入                | 20,000     | 47,700     | -27,700    |
| リーフレット販売収入          | 600,000    | 383,940    | 216,060    |
| バックナンバー等売上収入        | 10,000     | 7,500      | 2,500      |
| その他出版物収入            | 50,000     | 92,034     | -42,034    |
| 広告料収入               | 400,000    | 462,000    | -62,000    |
| 広報誌企画料              | 600,000    | 660,000    | -60,000    |
| アイランドアーク編集費・関連収入    | 2,200,000  | 2,095,438  | 104,562    |
| 雑収入                 | 220,000    | 462,642    | -242,642   |
| ②年会開催事業収入 4)        | 7,900,000  | 8,565,754  | -665,754   |
| 参加登録費収入             | 5,700,000  | 5,506,000  | 194,000    |
| 懇親会参加費収入            | 1,000,000  | 1,094,000  | -94,000    |
| 資料等販売収入(講演要旨)       | 150,000    | 157,000    | -7,000     |
| 展示収入                | 700,000    | 966,060    | -266,060   |
| 広告収入                | 250,000    | 720,200    | -470,200   |
| 雑収入                 | 100,000    | 122,494    | -22,494    |
| ③普及事業収入 5)          | 510,000    | 674,558    | -164,558   |
| 普及イベント参加費収入         | 100,000    | 31,758     | 68,242     |
| 普及資料等販売収入           | 400,000    | 562,800    | -162,800   |
| 雑収入                 | 10,000     | 80,000     | -70,000    |
| ④支部・部会等活動事業収入 6)    | 1,600,000  | 1,027,548  | 572,452    |
| イベント参加費収入           | 1,450,000  | 704,000    | 746,000    |
| 資料等販売収入             | 50,000     | 142,500    | -92,500    |
| 負担金収入               | 60,000     | 181,048    | -121,048   |
| 雑収入                 | 40,000     | 0          | 40,000     |
| ⑤補助金・寄付金等収入 7)      | 400,000    | 152,315    | 247,685    |
| 出版事業に係る補助金・寄付金収入    | 300,000    | 55,315     | 244,685    |
| 年会開催事業に係る補助金・寄付金収入  | 0          | 0          | 0          |
| 広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入 | 100,000    | 90,000     | 10,000     |
| その他助成金収入            | 0          | 7,000      | -7,000     |

|                |            |            |           |
|----------------|------------|------------|-----------|
| ⑥雑収入           | 270,300    | 259,447    | 10,853    |
| 受取利息           | 300        | 218        | 82        |
| 引当金受取利息        | 0          | 870        | -870      |
| その他の収入         | 270,000    | 258,359    | 11,641    |
| ⑦引当預金取崩し収入 8)  | 4,050,000  | 0          | 4,050,000 |
| 事業準備引当預金取崩し収入  | 1,500,000  | 0          | 1,500,000 |
| 年会開催引当預金取崩し収入  | 1,000,000  | 0          | 1,000,000 |
| 普及書出版引当預金取崩し収入 | 1,000,000  | 0          | 1,000,000 |
| 研究奨励引当預金取崩し収入  | 550,000    | 0          | 550,000   |
| 【事業活動収入計】      | 63,395,500 | 61,389,889 | 2,005,611 |
| 【前年度繰越金】       | 15,306,226 | 15,306,226 | 0         |
| 【収入合計】         | 78,701,726 | 76,696,115 | 2,005,611 |

| 科 目               | 2019年度予算   | 2019年度決算   | 差 異        |
|-------------------|------------|------------|------------|
| II. 事業活動支出の部      |            |            |            |
| 1) 事業費支出 9)       | 47,464,400 | 46,838,638 | 625,762    |
| ①出版事業 10)         | 30,689,600 | 31,972,173 | -1,282,573 |
| a 給料手当支出          | 4,800,000  | 4,844,912  | -44,912    |
| b 賞与支給支出          | 1,120,000  | 1,116,379  | 3,621      |
| c 退職掛け金支出         | 249,600    | 246,400    | 3,200      |
| d 法定福利費支出         | 1,040,000  | 868,731    | 171,269    |
| e 会議費支出           | 50,000     | 48,728     | 1,272      |
| f 旅費交通費支出         | 300,000    | 180,273    | 119,727    |
| 通信運搬費支出           | 3,800,000  | 4,120,118  | -320,118   |
| h 消耗什器備品費支出       | 517,500    | 296,027    | 221,473    |
| i OA機器・システム等保守管理費 | 337,500    | 371,363    | -33,863    |
| j 消耗品費支出          | 315,000    | 337,841    | -22,841    |
| 1 光熱水料費支出         | 251,662    | 263,256    | -11,594    |
| m 事務所賃借料支出        | 2,578,338  | 2,604,721  | -26,383    |
| 地質学雑誌印刷製本費支出      | 9,200,000  | 10,230,563 | -1,030,563 |
| News誌印刷製本費支出      | 3,000,000  | 3,127,697  | -127,697   |
| k 広報誌ほか印刷製本費支出    | 1,150,000  | 984,454    | 165,546    |
| 出版編集費             | 1,100,000  | 1,209,299  | -109,299   |
| 諸謝金支出             | 350,000    | 510,789    | -160,789   |
| 負担金支出             | 500,000    | 538,617    | -38,617    |
| n 雑支出             | 30,000     | 72,005     | -42,005    |
| ②年会開催事業 11)       | 9,702,400  | 9,288,578  | 413,822    |
| a 給料手当支出          | 1,200,000  | 1,211,226  | -11,226    |
| b 賞与支給支出          | 280,000    | 279,094    | 906        |
| c 退職掛け金支出         | 62,400     | 61,600     | 800        |
| d 法定福利費支出         | 260,000    | 217,180    | 42,820     |
| 臨時雇賃金支出           | 720,000    | 1,074,600  | -354,600   |
| 旅費交通費支出           | 300,000    | 169,200    | 130,800    |
| 通信運搬費支出           | 500,000    | 499,578    | 422        |
| 機器賃借料支出           | 620,000    | 819,720    | -199,720   |
| 消耗品費支出            | 30,000     | 46,260     | -16,260    |
| 印刷製本費支出           | 1,200,000  | 956,894    | 243,106    |
| 会場賃借料支出           | 400,000    | 0          | 400,000    |
| 会場設営・設備費支出        | 1,600,000  | 1,628,942  | -28,942    |
| 懇親会実施支出           | 1,000,000  | 1,095,975  | -95,975    |



| 科 目                    | 2019年度予算          | 2019年度決算          | 差 異             |
|------------------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 保険料支出                  | 15,000            | 14,630            | 370             |
| 委託費支出                  | 600,000           | 858,924           | -258,924        |
| 雑支出                    | 515,000           | 317,818           | 197,182         |
| 巡検実施支出                 | 400,000           | 36,937            | 363,063         |
| <b>③普及事業 12)</b>       | <b>3,447,400</b>  | <b>3,324,772</b>  | <b>122,628</b>  |
| a 給料手当支出               | 1,200,000         | 1,211,226         | -11,226         |
| b 賞与支給支出               | 280,000           | 279,094           | 906             |
| c 退職掛け金支出              | 62,400            | 61,600            | 800             |
| d 法定福利費支出              | 260,000           | 217,180           | 42,820          |
| e 会議費支出                | 25,000            | 15,722            | 9,278           |
| f 旅費交通費支出              | 120,000           | 209,984           | -89,984         |
| g 通信運搬費支出              | 160,000           | 239,375           | -79,375         |
| h 消耗什器備品費支出            | 115,000           | 65,778            | 49,222          |
| i OA機器・システム等保守管理費      | 75,000            | 82,517            | -7,517          |
| j 消耗品費支出               | 70,000            | 75,072            | -5,072          |
| k 印刷製本費支出              | 140,000           | 148,571           | -8,571          |
| 臨時雇賃金支出                | 30,000            | 0                 | 30,000          |
| 会場賃借料支出                | 100,000           | 7,700             | 92,300          |
| 普及イベント実施支出             | 150,000           | 56,252            | 93,748          |
| 広告宣伝費                  | 160,000           | 160,000           | 0               |
| 保険料支出                  | 10,000            | 9,700             | 300             |
| 諸謝金支出                  | 50,000            | 44,547            | 5,453           |
| 負担金支出                  | 400,000           | 400,000           | 0               |
| n 雑支出                  | 40,000            | 40,454            | -454            |
| <b>④支部・部会等活動事業 13)</b> | <b>2,325,000</b>  | <b>1,659,857</b>  | <b>665,143</b>  |
| 旅費交通費支出                | 170,000           | 295,988           | -125,988        |
| 通信運搬費支出                | 70,000            | 41,380            | 28,620          |
| 機器賃借料支出                | 5,000             | 13,720            | -8,720          |
| 消耗品費支出                 | 20,000            | 29,236            | -9,236          |
| 印刷製本費支出                | 100,000           | 145,698           | -45,698         |
| 臨時雇い賃金                 | 150,000           | 78,280            | 71,720          |
| 会場賃借料支出                | 160,000           | 76,350            | 83,650          |
| イベント実施支出               | 1,350,000         | 866,839           | 483,161         |
| 保険料支出                  | 40,000            | 16,500            | 23,500          |
| 諸謝金支出                  | 200,000           | 58,548            | 141,452         |
| 負担金支出                  | 20,000            | 0                 | 20,000          |
| 雑支出                    | 40,000            | 37,318            | 2,682           |
| <b>⑤研究奨励事業 14)</b>     | <b>1,050,000</b>  | <b>508,112</b>    | <b>541,888</b>  |
| 賞授与支出                  | 350,000           | 350,000           | 0               |
| 雑支出                    | 700,000           | 158,112           | 541,888         |
| <b>⑥特別事業 15)</b>       | <b>250,000</b>    | <b>85,146</b>     | <b>164,854</b>  |
| 国際交流等事業費               | 150,000           | 85,146            | 64,854          |
| 緊急災害調査事業費              | 100,000           | 0                 | 100,000         |
| <b>2)管理費 16)</b>       | <b>15,561,100</b> | <b>16,147,210</b> | <b>-586,110</b> |
| a 給料手当支出               | 4,800,000         | 4,844,927         | -44,927         |
| b 賞与支給支出               | 1,120,000         | 1,116,381         | 3,619           |
| c 退職金掛け金支出             | 249,600           | 246,400           | 3,200           |
| d 法定福利費支出              | 1,040,000         | 868,743           | 171,257         |

| 科 目               | 2019年度予算          | 2019年度決算          | 差 異               |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| e 会議費支出           | 140,000           | 153,726           | -13,726           |
| f 旅費交通費支出         | 800,000           | 789,310           | 10,690            |
| g 通信運搬費支出         | 1,020,000         | 1,482,511         | -462,511          |
| h 消耗什器備品費支出       | 517,500           | 296,044           | 221,456           |
| i OA機器・システム等保守管理費 | 337,500           | 371,385           | -33,885           |
| j 消耗品費支出          | 315,000           | 376,466           | -61,466           |
| k 印刷製本費支出         | 1,200,000         | 1,216,098         | -16,098           |
| l 光熱水料費支出         | 251,662           | 263,264           | -11,602           |
| m 事務所賃借料支出        | 2,578,338         | 2,604,728         | -26,390           |
| 諸謝金支出             | 518,400           | 457,200           | 61,200            |
| 租税公課支出            | 5,000             | 1,200             | 3,800             |
| 負担金支出             | 300,000           | 288,450           | 11,550            |
| n 雑支出             | 368,100           | 770,377           | -402,277          |
| <b>3)法人税等支出</b>   | <b>70,000</b>     | <b>70,000</b>     | <b>0</b>          |
| <b>4)引当預金繰入支出</b> | <b>300,000</b>    | <b>2,000</b>      | <b>298,000</b>    |
| 繰入支出              | 300,000           | 2,000             | 298,000           |
| <b>【事業活動支出計】</b>  | <b>63,395,500</b> | <b>63,057,848</b> | <b>337,652</b>    |
| <b>【事業活動収支差額】</b> | <b>0</b>          | <b>-1,667,959</b> | <b>-1,667,959</b> |
| <b>次期繰越収支差額</b>   | <b>15,306,226</b> | <b>13,638,267</b> | <b>1,667,959</b>  |

<注>2019年度決算

- 1) 収入全体としては前年度より減少。
- 2) 会員は依然減少傾向。収入には通年度分支払も含まれる。
- 3) 雑誌等の購読は減少、その他「フーレット」等の出版物の新作がないので売り上げも伸びず収入減となった。アイランドアークのロイヤリティはわずかに減額。
- 4) 参加費収入は予算より減額。展示、広告の収入がLOCの努力で大幅にアップ。
- 5) 紙物干渉色表の増刷によりロゴ入れ代、買い上げによる収入増。
- 6) 宛지가支部活動による収入。2月～3月の支部行事が中止となり、収入減。
- 7) 学会名義の出版物による印税、フォトコン協賛金など。
- 8) 宛지가支部活動による収入。2月～3月の支部行事が中止となり、収入減。
- 9) 支出全体としては予算内に収まっているが、消費税の値上げによる影響も見られる。
- 10) ①～③の各事業費の管理費(a～n)は②管理費支出との案分比例「各事業固有の費用、アイランドアークオンライン購読(2口)は毎年微増している。
- 11) 案分比例の管理費(a～n)を除き、運送業者への支出が見積り額より一部増。
- 12) 情報展等は科研費が採択されたので、それ以外の支出。
- 13) 各支部の事業費、関東支部の収支はプラス約100万円。
- 14) 海外からの受入者の来日はなく予算の使用はなかった。
- 15) 海外からの受入者の来日はなく、韓国からの招請の交通費等のみ、また、京都による出版費用もなかった。
- 16) 個々の科目には増減はあるが、全体としては概ね予算内に収めた。雑誌の決算額大幅増は、2018年度前受会費のうち、2019年度会費と銀行引き落とし額等(雑誌)の相殺金額(277,538円)を計上修正したため。

## 収 支 計 算 書

〔 自 2019年 4月 1日  
至 2020年 3月 31日 〕

| (単位：円)               |             | (単位：円)      |     |           | 備 考 |
|----------------------|-------------|-------------|-----|-----------|-----|
| 科 目                  | 予 算 額       | 決 算 額       | 差 異 |           |     |
| I. 事業活動収支の部          |             |             |     |           |     |
| 1. 事業活動収入            |             |             |     |           |     |
| 基本財産運用収入             | 2,500       | 2,546       | △   | 46        |     |
| 特定資産運用収入             | 2,700       | 2,000       |     | 700       |     |
| 会費収入                 | 40,050,000  | 40,321,500  | △   | 271,500   |     |
| 事業収入                 |             |             |     |           |     |
| 出版事業収入               | 8,610,000   | 10,384,221  | △   | 1,774,221 |     |
| 年会開催事業収入             | 7,900,000   | 8,565,754   | △   | 665,754   |     |
| 普及事業収入               | 510,000     | 674,558     | △   | 164,558   |     |
| 支部・部会等活動事業収入         | 1,600,000   | 1,027,548   |     | 572,452   |     |
| 事業収入計                | 18,620,000  | 20,652,081  | △   | 2,032,081 |     |
| 補助金・寄付金等収入           | 400,000     | 152,315     |     | 247,685   |     |
| 雑収入                  | 270,300     | 259,447     |     | 10,853    |     |
| 事業活動収入計              | 59,345,500  | 61,389,889  | △   | 2,044,389 |     |
| 2. 事業活動支出            |             |             |     |           |     |
| 事業費支出                |             |             |     |           |     |
| 出版事業費                | 19,100,000  | 20,721,537  | △   | 1,621,537 |     |
| 年会開催事業費              | 7,900,000   | 7,519,478   |     | 380,522   |     |
| 普及事業費                | 900,000     | 826,770     |     | 73,230    |     |
| 支部・部会等活動事業費          | 2,325,000   | 1,659,857   |     | 665,143   |     |
| 研究奨励事業費              | 1,050,000   | 508,112     |     | 541,888   |     |
| 特別事業費                | 250,000     | 85,146      |     | 164,854   |     |
| 事業管理費 <sup>(注)</sup> | 15,939,400  | 15,517,738  |     | 421,662   |     |
| 事業費支出計               | 47,464,400  | 46,838,638  |     | 625,762   |     |
| 管理費支出                |             |             |     |           |     |
| 人件費                  | 7,209,600   | 7,076,451   |     | 133,149   |     |
| 旅費交通費                | 800,000     | 789,310     |     | 10,690    |     |
| 事務所賃借料               | 2,578,338   | 2,604,728   | △   | 26,390    |     |
| 事務諸費                 | 4,605,062   | 4,906,344   | △   | 301,282   |     |
| 雑費                   | 368,100     | 770,377     | △   | 402,277   |     |
| 法人税等支出               | 70,000      | 70,000      |     | 0         |     |
| 管理費支出計               | 15,631,100  | 16,217,210  | △   | 586,110   |     |
| 事業活動支出計              | 63,095,500  | 63,055,848  |     | 39,652    |     |
| 事業活動収支差額             | △ 3,750,000 | △ 1,665,959 | △   | 2,084,041 |     |

|                 |            |   |            |   |           |
|-----------------|------------|---|------------|---|-----------|
| II. 投資活動収支の部    |            |   |            |   |           |
| 1. 投資活動収入       |            |   |            |   |           |
| 事業準備引当預金取崩収入    | 1,500,000  |   |            | 0 | 1,500,000 |
| 年会開催費引当預金取崩収入   | 1,000,000  |   |            | 0 | 1,000,000 |
| 普及書出版引当預金取崩収入   | 1,000,000  |   |            | 0 | 1,000,000 |
| 研究奨励引当預金取崩収入    | 550,000    |   |            | 0 | 550,000   |
| 投資活動収入計         | 4,050,000  |   |            | 0 | 4,050,000 |
| 2. 投資活動支出       |            |   |            |   |           |
| 退職手当引当預金繰入支出    | 0          |   | 688        | △ | 688       |
| 年会開催補助費引当預金繰入支出 | 0          |   | 609        | △ | 609       |
| 普及書出版引当預金繰入支出   | 300,000    |   | 571        |   | 299,429   |
| 研究奨励引当預金繰入支出    | 0          |   | 132        | △ | 132       |
| 投資活動支出計         | 300,000    |   | 2,000      |   | 298,000   |
| 投資活動収支差額        | 3,750,000  | △ | 2,000      |   | 3,752,000 |
| III. 財務活動収支の部   |            |   |            |   |           |
| 1. 財務活動収入       | 0          |   | 0          |   | 0         |
| 2. 財務活動支出       | 0          |   | 0          |   | 0         |
| 財務活動収支差額        | 0          |   | 0          |   | 0         |
| 当期収支差額          | 0          | △ | 1,667,959  |   | 1,667,959 |
| 前期繰越収支差額        | 15,306,226 |   | 15,306,226 |   | 0         |
| 次期繰越収支差額        | 15,306,226 |   | 13,638,267 |   | 1,667,959 |

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。



計算書類に対する注記 (2019年度)

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準 (平成16年10月) を採用している。

1) 引当金の計上について

- ・事業準備引当金：将来的な事業、前年度未完事業、会員名簿出版、大規模災害調査・研究などのために引当。
- ・年会開催補助引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当。
- ・退職手当引当金：期末要支給額のうち、中退共掛け金を考慮した見込み額を引当。
  - \* 中退共の掛け金積立額：今期末で4,666,610円(利子含む：2名分)。
- ・普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備え引当。
- ・周年記念事業準備引当金：2018年度にて事業終了の125周年記念事業準備引当金の残額を名称変更して引当金とする。
- ・研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当。

2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである。

| (単位円)     |            |       |       |            |
|-----------|------------|-------|-------|------------|
| 科 目       | 期首残高       | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高      |
| 預 金       | 30,000,000 | 0     | 0     | 30,000,000 |
| 合計 (基本財産) | 30,000,000 | 0     | 0     | 30,000,000 |

収支計算書に対する注記 (2019年度)

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金、預金、現金、預金、前払金、未払金、預り金、前受金を含める。

期末残高は下記に示すとおりである。

2. 次期繰り越し収支差額の内容は、次のとおりである。

| (単位円)     |            |            |  |
|-----------|------------|------------|--|
| 科 目       | 前期末残高      | 当期末残高      |  |
| 現金(切手残高含) | 54,733     | 236,318    |  |
| 預 金       | 47,983,559 | 46,219,921 |  |
| 仮払金       | 142,457    | 307,550    |  |
| 前払金       | 0          | 31,430     |  |
| 合 計       | 48,180,749 | 46,795,219 |  |
| 未払金       | 1,534,633  | 1,745,610  |  |
| 預り金       | 496,528    | 795,942    |  |
| 前受金       | 30,843,362 | 30,615,400 |  |
| 合 計       | 32,874,523 | 33,156,952 |  |
| 次期繰越収支差額  | 15,306,226 | 13,638,267 |  |

財 産 目 録

2020年3月31日現在

| (単位：円)                                            |                |  |
|---------------------------------------------------|----------------|--|
| 科 目                                               | 金 額            |  |
| I 資産の部                                            |                |  |
| 1. 流動資産                                           |                |  |
| 現金 (現金：195,343円、切手40,975円)                        | 236,318        |  |
| 預貯金 ( ( 46,219,921 )                              | ( 46,219,921 ) |  |
| 三井住友銀行神田駅前支店 (普通) 171,1424                        | 17,595,870     |  |
| みずほ銀行神田駅前 (普通) 2229416                            | 5,937,599      |  |
| 三菱UFJ銀行神田駅前 (普通) 0108667                          | 2,509,760      |  |
| 三菱UFJ銀行神田駅前 (定期) 0022615-4                        | 243,412        |  |
| ゆうちょ銀行振替口座 00140-8-28067                          | 19,203,965     |  |
| ゆうちょ銀行 (普通) 62073562                              | 729,315        |  |
| 仮払金 (労働保険料2019年度概算払いほか)                           | 307,550        |  |
| 前払金 (新規雇用の交通費)                                    | 31,430         |  |
| 流動資産合計                                            | 46,795,219     |  |
| 2. 固定資産                                           |                |  |
| (1) 基本財産                                          |                |  |
| 預金 (みずほ銀行神田駅前支店 (定期) 6558120-1, 2, 5, 6)          | 30,000,000     |  |
| 基本財産合計                                            | 30,000,000     |  |
| (2) その他の固定資産                                      |                |  |
| 敷金・保証金 (井桁ビル預け)                                   | 2,000,000      |  |
| 特定資産                                              | ( 34,633,566 ) |  |
| 事業準備引当預金 (みずほ銀行神田駅前支店 (定期) 6558120-9)             | 7,600,000      |  |
| 退職手当引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店 (定期) 0022615-1, 6, 7)     | 8,131,824      |  |
| 年会開催補助費引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店 (定期) 0022615-2, 一部普通)  | 7,718,645      |  |
| 普及書出版引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店 (定期) 0022615-3, 9, 一部普通) | 7,235,908      |  |
| 研究奨励引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店 (定期) 0022615-8)           | 1,547,189      |  |
| 周年記念事業準備引当預金                                      | 2,400,000      |  |
| その他の固定資産合計                                        | 36,633,566     |  |
| 固定資産合計                                            | 66,633,566     |  |
| 資産合計                                              | 113,428,785    |  |
| II 負債の部                                           |                |  |
| 1. 流動負債                                           |                |  |
| 未払金                                               | 1,745,610      |  |
| 預り金 (社保料2月・3月分他)                                  | 795,942        |  |
| 前受金 (2020年4月以降の会費)                                | 30,615,400     |  |
| 流動負債合計                                            | 33,156,952     |  |
| 2. 固定負債                                           |                |  |
| 引当金                                               | ( 34,633,566 ) |  |
| 事業準備引当金                                           | 7,600,000      |  |
| 退職手当引当金                                           | 8,131,824      |  |
| 年会開催補助費引当金                                        | 7,718,645      |  |
| 普及書出版引当金                                          | 7,235,908      |  |
| 研究奨励引当金                                           | 1,547,189      |  |
| 周年記念事業準備引当金                                       | 2,400,000      |  |
| 固定負債合計                                            | 34,633,566     |  |
| 負債合計                                              | 67,790,518     |  |
| 正味財産                                              | 45,638,267     |  |

## 貸借対照表

2020年3月31日現在

|              |             | (単位:円)      |             |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 科 目          | 当年度         | 前年度         | 増 減         |
| I 資産の部       |             |             |             |
| 1. 流動資産      |             |             |             |
| 現金           | 236,318     | 54,733      | 181,585     |
| 預金           | 46,219,921  | 47,983,559  | △ 1,763,638 |
| 仮払金          | 307,550     | 142,457     | 165,093     |
| 前払金          | 31,430      |             | 31,430      |
| 流動資産合計       | 46,795,219  | 48,180,749  | △ 1,385,530 |
| 2. 固定資産      |             |             |             |
| (1) 基本財産     |             |             |             |
| 預金           | 30,000,000  | 30,000,000  | 0           |
| 基本財産合計       | 30,000,000  | 30,000,000  | 0           |
| (2) その他の固定資産 |             |             |             |
| 敷金・保証金       | 2,000,000   | 2,000,000   | 0           |
| 特定資産         | 34,633,566  | 34,631,566  | 2,000       |
| 事業準備引当預金     | 7,600,000   | 7,600,000   | 0           |
| 退職手当引当預金     | 8,131,824   | 8,131,136   | 688         |
| 年会開催補助費引当預金  | 7,718,645   | 7,718,036   | 609         |
| 普及書出版引当預金    | 7,235,908   | 7,235,337   | 571         |
| 研究奨励引当預金     | 1,547,189   | 1,547,057   | 132         |
| 周年記念事業準備引当預金 | 2,400,000   | 2,400,000   | 0           |
| その他の固定資産合計   | 36,633,566  | 36,631,566  | 2,000       |
| 固定資産合計       | 66,633,566  | 66,631,566  | 2,000       |
| 資産合計         | 113,428,785 | 114,812,315 | △ 1,383,530 |
| II 負債の部      |             |             |             |
| 1. 流動負債      |             |             |             |
| 未払金          | 1,745,610   | 1,534,633   | 210,977     |
| 預り金          | 795,942     | 496,528     | 299,414     |
| 前受金          | 30,615,400  | 30,843,362  | △ 227,962   |
| 流動負債合計       | 33,156,952  | 32,874,523  | 71,452      |
| 2. 固定負債      |             |             |             |
| 引当金          |             |             |             |
| 事業準備引当金      | 7,600,000   | 7,600,000   | 0           |
| 退職手当引当金      | 8,131,824   | 8,131,136   | 688         |
| 年会開催補助費引当金   | 7,718,645   | 7,718,036   | 609         |
| 普及書出版引当金     | 7,235,908   | 7,235,337   | 571         |
| 研究奨励引当金      | 1,547,189   | 1,547,057   | 132         |
| 周年記念事業準備引当金  | 2,400,000   | 2,400,000   | 0           |
| 固定負債合計       | 34,633,566  | 34,631,566  | 2,000       |
| 負債合計         | 67,790,518  | 67,506,089  | 73,452      |
| III 正味財産の部   |             |             |             |
| 1. 指定正味財産    | 0           | 0           | 0           |
| 2. 一般正味財産    | 45,638,267  | 47,306,226  | △ 1,667,959 |
| 正味財産合計       | 45,638,267  | 47,306,226  | △ 1,667,959 |
| 負債及び正味財産合計   | 113,428,785 | 114,812,315 | △ 1,594,507 |

## 正味財産増減計算書

( 自 2019年 4 月 1 日  
至 2020年 3 月 31 日 )

|               |             | (単位:円)     |             |
|---------------|-------------|------------|-------------|
| 科 目           | 当年度         | 前年度        | 増 減         |
| I. 一般正味財産増減の部 |             |            |             |
| 1. 経常増減の部     |             |            |             |
| (1) 経常収益      |             |            |             |
| 基本財産運用収入      | 2,546       | 2,542      | 4           |
| 特定資産運用収入      | 2,000       | 2,810      | △ 810       |
| 会費収入          | 40,321,500  | 41,652,650 | △ 1,331,150 |
| 事業収入          |             |            |             |
| 出版事業収入        | 10,384,221  | 10,658,565 | △ 274,344   |
| 年会開催事業収入      | 8,565,754   | 7,996,031  | 569,723     |
| 普及事業収入        | 674,558     | 438,682    | 235,876     |
| 支部・部会等活動事業収入  | 1,027,548   | 1,301,350  | △ 273,802   |
| 周年記念事業収入      | 0           | 4,334,360  | △ 4,334,360 |
| 事業収入計         | 20,652,081  | 24,728,988 | △ 4,076,907 |
| 補助金・寄付金等収入    | 152,315     | 950,500    | △ 798,185   |
| 雑収入           | 259,447     | 291,739    | △ 32,292    |
| 経常収益計         | 61,389,889  | 67,629,229 | △ 6,239,340 |
| (2) 経常費用      |             |            |             |
| 事業費           |             |            |             |
| 出版事業費         | 20,721,537  | 20,192,177 | 529,360     |
| 年会開催事業費       | 7,519,478   | 7,930,859  | △ 411,381   |
| 普及事業費         | 826,770     | 1,180,623  | △ 353,853   |
| 支部・部会等活動事業費   | 1,659,857   | 2,122,355  | △ 462,498   |
| 研究奨励事業費       | 508,112     | 936,791    | △ 428,679   |
| 周年記念事業費       | 0           | 5,627,099  | △ 5,627,099 |
| 特別事業費         | 85,146      | 210,612    | △ 125,466   |
| 事業管理費         | 15,517,738  | 15,922,806 | △ 405,068   |
| 事業費計          | 46,838,638  | 54,123,322 | △ 7,284,684 |
| 管理費           |             |            |             |
| 人件費           | 7,076,451   | 7,641,748  | △ 565,297   |
| 旅費交通費         | 789,310     | 875,433    | △ 86,123    |
| 事務所賃借料        | 2,604,728   | 2,442,636  | 162,092     |
| 事務諸費          | 4,906,344   | 2,926,221  | 1,980,123   |
| 雑費            | 770,377     | 171,968    | 598,409     |
| 法人税等支出        | 70,000      | 70,000     | 0           |
| 管理費計          | 16,217,210  | 14,128,006 | 2,089,204   |
| 経常費用計         | 63,055,848  | 68,251,328 | △ 5,195,480 |
| 当期経常増減額       | △ 1,665,959 | △ 622,099  | △ 1,043,860 |



| 科 目           | 当 年 度       | 前 年 度      | 増 減         | 備 考 |
|---------------|-------------|------------|-------------|-----|
| 2. 経常外増減の部    |             |            |             |     |
| (1) 経常外収益     |             |            |             |     |
| 周年記念事業引当金取崩額  | 0           | 1,297,896  | △ 1,297,896 |     |
| 経常外収益計        | 0           | 1,297,896  | △ 1,297,896 |     |
| (2) 経常外費用     |             |            |             |     |
| 退職手当引当金繰入額    | 688         | 688        | 0           |     |
| 年会開催補助費引当金繰入額 | 609         | 607        | 2           |     |
| 普及書出版引当金繰入額   | 571         | 500,516    | △ 499,945   |     |
| 研究奨励引当金繰入額    | 132         | 131        | 1           |     |
| 周年事業準備引当金繰入額  | 0           | 224        | △ 224       |     |
| 経常外費用計        | 2,000       | 502,166    | △ 500,166   |     |
| 当期経常外増減額      | △ 2,000     | 795,730    | △ 797,730   |     |
| 当期一般正味財産増減額   | △ 1,667,959 | 173,631    | △ 1,841,590 |     |
| 一般正味財産期首残高    | 47,306,226  | 47,132,595 | 173,631     |     |
| 一般正味財産期末残高    | 45,638,267  | 47,306,226 | △ 1,667,959 |     |
| Ⅱ. 指定正味財産増減の部 |             |            |             |     |
| 当期指定正味財産増減額   | 0           | 0          | 0           |     |
| 指定正味財産期首残高    | 0           | 0          | 0           |     |
| 指定正味財産期末残高    | 0           | 0          | 0           |     |
| Ⅲ. 正味財産期末残高   | 45,638,267  | 47,306,226 | △ 1,667,959 |     |

## 会計監査報告書

一般社団法人日本地質学会

2019 年度会長 松田 博貴 殿

2020 年 6 月 22 日

2019 年度監事 山本 正司

同 監事 藤本光一郎

私たち監査 2 名は、2019 年度一般社団法人日本地質学会会計について、関係書類に基づき監査いたしました。その結果について、以下のとおりご報告いたします。

## 1. 監査日

2020 年 6 月 22 日

## 2. 監査対象

2019 年度 (2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日) 会計

## 3. 監査方法

当該事業年度における会計について必要に応じて説明を受け、計算書類・預金通帳などを確認いたしました。いずれも適正、正確に処理されていることを認めます。

## 4. 監査意見

2019 年度決算は、当初予算支出に比べ、運営他の努力によって、決算支出を抑制したことは評価できる。しかしながら、単年度は 166 万余りの赤字となっていることも事実である。来年度以降も会員減少の影響を受け、会計が一層厳しくなることが予想されるので、引き続き運営についてはより適切に対応されたい。

一般社団法人日本地質学会2020年度収支予算案  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

\* 予算案増減のマイナスは前年度予算より減、そのほかは前年度同額及び増額となります。

| 科 目                 | 2019年度予算   | 2020年度予算案  | 増減         |
|---------------------|------------|------------|------------|
| I 事業活動収入の部          |            |            |            |
| 1 事業活動収入            |            |            |            |
| 1) 基本財産運用収入         | 2,500      | 2,500      | 0          |
| 基本財産利息収入            | 2,500      | 2,500      | 0          |
| 2) 特定資産運用収入         | 2,000      | 2,000      | 0          |
| 特定資産運用収入            | 2,000      | 2,000      | 0          |
| 3) 会費収入 1)          | 40,050,000 | 38,860,000 | -1,190,000 |
| 正会員会費収入             | 37,000,000 | 36,000,000 | -1,000,000 |
| 正会員院生割引会費収入         | 1,400,000  | 1,300,000  | -100,000   |
| 正会員学生割引会費収入         | 50,000     | 60,000     | 10,000     |
| 賛助会員会費収入            | 1,600,000  | 1,500,000  | -100,000   |
| 4) 事業収入             | 23,341,000 | 23,101,000 | -240,000   |
| ①出版事業収入 2)          | 8,610,000  | 8,250,000  | -360,000   |
| 雑誌販売収入              | 2,000,000  | 2,000,000  | 0          |
| 雑誌印刷賃借収入            | 2,000,000  | 2,000,000  | 0          |
| 別刷収入                | 500,000    | 400,000    | -100,000   |
| 広報誌販売収入             | 10,000     | 20,000     | 10,000     |
| 論集収入                | 20,000     | 20,000     | 0          |
| リーフレット販売収入          | 600,000    | 600,000    | 0          |
| バックナンバー等売上収入        | 10,000     | 10,000     | 0          |
| その他出版物収入            | 50,000     | 50,000     | 0          |
| 広告料収入               | 400,000    | 350,000    | -50,000    |
| 広報誌企画料              | 600,000    | 400,000    | -200,000   |
| アイランドアーク編集費・関連収入    | 2,200,000  | 2,100,000  | -100,000   |
| 雑収入                 | 220,000    | 300,000    | 80,000     |
| ②年会開催事業収入 3)        | 7,900,000  | 7,850,000  | -50,000    |
| 参加登録費収入             | 5,700,000  | 6,000,000  | 300,000    |
| 懇親会参加費収入            | 1,000,000  | 800,000    | -200,000   |
| 資料等販売収入(講演要旨)       | 150,000    | 0          | -150,000   |
| 展示収入                | 700,000    | 800,000    | 100,000    |
| 広告収入                | 250,000    | 100,000    | -150,000   |
| 雑収入                 | 100,000    | 150,000    | 50,000     |
| ③普及事業収入             | 510,000    | 480,000    | -30,000    |
| 普及イベント参加費収入         | 100,000    | 50,000     | -50,000    |
| 普及資料等販売収入           | 400,000    | 420,000    | 20,000     |
| 雑収入                 | 10,000     | 10,000     | 0          |
| ④支部・部会等活動事業収入       | 1,600,000  | 1,670,000  | 70,000     |
| イベント参加費収入           | 1,450,000  | 1,450,000  | 0          |
| 資料等販売収入             | 50,000     | 80,000     | 30,000     |
| 負担金収入               | 60,000     | 100,000    | 40,000     |
| 雑収入                 | 40,000     | 40,000     | 0          |
| ⑤補助金・寄付金等収入 4)      | 400,000    | 200,000    | -200,000   |
| 出版事業に係る補助金・寄付金収入    | 300,000    | 100,000    | -200,000   |
| 年会開催事業に係る補助金・寄付金収入  | 0          | 0          | 0          |
| 広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入 | 100,000    | 100,000    | 0          |
| その他助成金収入            | 0          | 0          | 0          |

|                |            |            |            |
|----------------|------------|------------|------------|
| ⑥雑収入           | 271,000    | 201,000    | -70,000    |
| 受け取り利息         | 300        | 300        | 0          |
| 引当金受取利息        | 700        | 700        | 0          |
| その他の収入         | 270,000    | 200,000    | -70,000    |
| ⑦引当預金取崩し収入 5)  | 4,050,000  | 4,450,000  | 400,000    |
| 事業準備引当預金取崩し収入  | 1,500,000  | 1,500,000  | 0          |
| 年会開催引当預金取崩し収入  | 1,000,000  | 1,000,000  | 0          |
| 普及書出版引当預金取崩し収入 | 1,000,000  | 1,500,000  | 500,000    |
| 研究奨励引当預金取崩し収入  | 550,000    | 450,000    | -100,000   |
| 【事業活動収入計】      | 63,395,500 | 61,965,500 | -1,430,000 |
| 【前年度繰越金】       | 15,306,226 | 13,638,267 | -1,667,959 |
| 【収入合計】         | 78,701,726 | 75,603,767 | -3,097,959 |

| 科 目                | 2019年度予算   | 2020年度予算案  | 前年度予算との増減 |
|--------------------|------------|------------|-----------|
| II. 事業活動支出の部       |            |            |           |
| 1) 事業費支出 6)        | 47,464,400 | 48,329,730 | 865,330   |
| ①出版事業 7)           | 30,689,600 | 32,120,270 | 1,430,670 |
| a 給料手当支出           | 4,800,000  | 4,880,000  | 80,000    |
| b 賞与支給支出           | 1,120,000  | 1,200,000  | 80,000    |
| c 退職掛け金支出          | 249,600    | 249,600    | 0         |
| d 法定福利費支出          | 1,040,000  | 760,000    | -280,000  |
| e 会議費支出            | 50,000     | 37,800     | -12,200   |
| f 旅費交通費支出          | 300,000    | 150,000    | -150,000  |
| 通信運搬費支出            | 3,800,000  | 4,000,000  | 200,000   |
| 消耗什器備品費支出          | 517,500    | 450,000    | -67,500   |
| i OA機器・システム等保守管理費、 | 337,500    | 337,500    | 0         |
| j 消耗品費支出           | 315,000    | 337,500    | 22,500    |
| l 光熱水料費支出          | 251,662    | 250,000    | -1,662    |
| m 事務所賃借料支出         | 2,578,338  | 2,487,870  | -90,468   |
| 地質学雑誌印刷製本費支出       | 9,200,000  | 10,000,000 | 800,000   |
| News誌印刷製本費支出       | 3,000,000  | 3,300,000  | 300,000   |
| k 広報誌ほか印刷製本費支出     | 1,150,000  | 1,450,000  | 300,000   |
| 出版編集費              | 1,100,000  | 1,100,000  | 0         |
| 諸謝金支出              | 350,000    | 500,000    | 150,000   |
| 負担金支出              | 500,000    | 560,000    | 60,000    |
| n 雑支出              | 30,000     | 70,000     | 40,000    |
| ②年会開催事業 8)         | 9,702,400  | 9,592,400  | -110,000  |
| a 給料手当支出           | 1,200,000  | 1,220,000  | 20,000    |
| b 賞与支給支出           | 280,000    | 300,000    | 20,000    |
| c 退職掛け金支出          | 62,400     | 62,400     | 0         |
| d 法定福利費支出          | 260,000    | 190,000    | -70,000   |
| 臨時雇賃金支出            | 720,000    | 750,000    | 30,000    |
| 旅費交通費支出            | 300,000    | 130,000    | -170,000  |
| 通信運搬費支出            | 500,000    | 100,000    | -400,000  |
| 機器賃借料支出            | 620,000    | 526,900    | -93,100   |
| 消耗品費支出             | 30,000     | 50,000     | 20,000    |
| 演題登録公開費            | 0          | 1,090,000  | 1,090,000 |

| 科 目                    | 2019年度予算         | 2020年度予算案        | 前年度予算との増減       |
|------------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 印刷製本費支出                | 1,200,000        | 0                | -1,200,000      |
| 会場賃借料支出                | 400,000          | 1,000,000        | 600,000         |
| 会場設置・設備費支出             | 1,600,000        | 1,802,350        | 202,350         |
| 懇親会実施支出                | 1,000,000        | 800,000          | -200,000        |
| 保険料支出                  | 15,000           | 15,000           | 0               |
| 委託費支出                  | 600,000          | 1,134,500        | 534,500         |
| 雑支出                    | 515,000          | 321,250          | -193,750        |
| 巡検実施支出                 | 400,000          | 100,000          | -300,000        |
| <b>③普及事業 9)</b>        | <b>3,447,400</b> | <b>4,061,300</b> | <b>613,900</b>  |
| a 給料手当支出               | 1,220,000        | 1,220,000        | 20,000          |
| b 賞与支給支出               | 280,000          | 300,000          | 20,000          |
| c 退職金掛け金支出             | 62,400           | 62,400           | 0               |
| d 法定福利費支出              | 260,000          | 190,000          | -70,000         |
| e 会議費支出                | 25,000           | 18,900           | -6,100          |
| f 旅費交通費支出              | 120,000          | 90,000           | -30,000         |
| g 通信運搬費支出              | 160,000          | 150,000          | -10,000         |
| h 消耗什器備品費支出            | 115,000          | 100,000          | -15,000         |
| i OA機器・システム等保守管理費、     | 75,000           | 75,000           | 0               |
| j 消耗品費支出               | 70,000           | 75,000           | 5,000           |
| k 印刷製本費支出              | 140,000          | 1,035,000        | 895,000         |
| 臨時雇賃金支出                | 30,000           | 0                | -30,000         |
| 会場賃借料支出                | 100,000          | 20,000           | -80,000         |
| 普及イベント実施支出             | 150,000          | 80,000           | -70,000         |
| 広告宣伝費                  | 160,000          | 160,000          | 0               |
| 保険料支出                  | 10,000           | 10,000           | 0               |
| 諸謝金支出                  | 50,000           | 35,000           | -15,000         |
| 負担金支出                  | 400,000          | 400,000          | 0               |
| n 雑支出                  | 40,000           | 40,000           | 0               |
| <b>④支部・部会等活動事業 10)</b> | <b>2,325,000</b> | <b>1,855,760</b> | <b>-469,240</b> |
| 旅費交通費支出                | 170,000          | 250,000          | 80,000          |
| 通信運搬費支出                | 70,000           | 70,000           | 0               |
| 機器賃借料支出                | 5,000            | 15,760           | 10,760          |
| 消耗品費支出                 | 20,000           | 30,000           | 10,000          |
| 印刷製本費支出                | 100,000          | 150,000          | 50,000          |
| 臨時雇い賃金                 | 150,000          | 90,000           | -60,000         |
| 会場賃借料支出                | 160,000          | 100,000          | -60,000         |
| イベント実施支出               | 1,350,000        | 900,000          | -450,000        |
| 保険料支出                  | 40,000           | 20,000           | -20,000         |
| 諸謝金支出                  | 200,000          | 180,000          | -20,000         |
| 負担金支出                  | 20,000           | 15,000           | -5,000          |
| 雑支出                    | 40,000           | 35,000           | -5,000          |
| <b>⑤研究奨励事業 11)</b>     | <b>1,050,000</b> | <b>450,000</b>   | <b>-600,000</b> |
| 賞授与支出                  | 350,000          | 250,000          | -100,000        |
| 雑支出                    | 700,000          | 200,000          | -500,000        |
| <b>⑥特別事業 12)</b>       | <b>250,000</b>   | <b>250,000</b>   | <b>0</b>        |
| 国際交流等事業費               | 150,000          | 150,000          | 0               |
| 緊急災害調査事業費              | 100,000          | 100,000          | 0               |

| 科 目                   | 2019年度予算          | 2020年度予算案         | 前年度予算との増減         |
|-----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| <b>2)管理費 13)</b>      | <b>15,561,100</b> | <b>13,565,770</b> | <b>-1,995,330</b> |
| a 給料手当支出              | 4,800,000         | 4,880,000         | 80,000            |
| b 賞与支給支出              | 1,120,000         | 1,200,000         | 80,000            |
| c 退職金掛け金支出            | 249,600           | 249,600           | 0                 |
| d 法定福利費支出             | 1,040,000         | 760,000           | -280,000          |
| e 会議費支出               | 140,000           | 132,300           | -7,700            |
| f 旅費交通費支出             | 800,000           | 600,000           | -200,000          |
| g 通信運搬費支出             | 1,020,000         | 600,000           | -420,000          |
| h 消耗什器備品費支出           | 517,500           | 450,000           | -67,500           |
| i OA機器・システム等保守管理費     | 337,500           | 337,500           | 0                 |
| j 消耗品費支出              | 315,000           | 337,500           | 22,500            |
| k 印刷製本費支出             | 1,200,000         | 200,000           | -1,000,000        |
| l 光熱水料費支出             | 251,662           | 250,000           | -1,662            |
| m 事務所賃借料支出            | 2,578,338         | 2,487,870         | -90,468           |
| 諸謝金支出                 | 518,400           | 396,000           | -122,400          |
| 租税公課支出                | 5,000             | 12,000            | 7,000             |
| 負担金支出                 | 300,000           | 300,000           | 0                 |
| n 雑支出                 | 368,100           | 373,000           | 4,900             |
| <b>3)法人税等支出</b>       | <b>70,000</b>     | <b>70,000</b>     | <b>0</b>          |
| <b>4)引当預金繰入支出 14)</b> | <b>300,000</b>    | <b>0</b>          | <b>-300,000</b>   |
| 繰入支出                  | 300,000           | 0                 | -300,000          |
| <b>【事業活動収支合計】</b>     | <b>63,395,500</b> | <b>61,965,500</b> | <b>-1,430,000</b> |
| <b>【事業活動収支差額】</b>     | <b>0</b>          | <b>0</b>          | <b>0</b>          |
| <b>次期繰越収支差額</b>       | <b>15,306,226</b> | <b>13,638,267</b> | <b>-1,667,959</b> |

# <注>2020年度予算案

- 1) 会費は依然減少傾向、前年よりやや減額
- 2) 雑費等の購読も減少傾向は続く。印刷負担金が収入源となっている。
- 3) 年会参加費増減なし、名古屋の地理的条件で参加者増を期待。印刷物の売り上げなし、地域販売収入は望めない。
- 4) 学会を業による出版物印刷の寄付収入、フォトコン協賛金など。
- 5) 目的に応じた引当準備金の取崩しを予定。
- 6) ①～③の各事業費の管理費(a～d)は、②)管理費支出との案分比例・各事業固有の費用。
- 7) 地質学雑誌印刷費は差額に応じて増額。
- 8) 年会支出のうち、案分比例の管理費(a～d)を除き、収支は相殺の予算とする。
- 9) 普及事業としては特段の事業予定がない、年会普及事業経費は科研費申請で予算案には考慮なし。
- 10) 各支部、部会の事業予算を勘案したが、低調。
- 11) 引当金で賄う予定。
- 12) 国際交流費による交流学会との往來は韓国の招聘のみ。
- 13) 管理費は今期は特筆すべき事業はないので例年並み、PC等の入れ替えで消耗什器経費は増額。
- 14) 普及書出版印刷 寄付を繰入予定。



## 永年会員（50年会員）顕彰33名 1970年入会



石井輝秋



小笠原憲四郎



加藤碩一



兼岡一郎



藤岡換太郎



本間岳史



宮下純夫



森 慎一



山口佳昭



横山俊治



細谷正夫



佐藤興平



松川正樹



上野将司



大原一男



田沢純一



白木敬一

相原延光, 縣 孝之, 磯田喜義, 奥野 満,  
神田 哲, 沢田順弘, 滝沢 茂, 滝沢洋雄,  
長沢元之, 布目眞澄, 原田知子, 藤井敏嗣,  
藤山 敦, 松田丞司, 屋鋪増弘, 和田秀樹  
(順不同, 敬称略)

## 日本地質学会 2020年度 名誉会員推薦文

日本地質学会名誉会員推薦委員会  
委員長 佐々木和彦

2020年度の名誉会員として、西村祐二郎会  
員および小松正幸会員の2名を選出いたしま  
した。推薦理由は以下のとおりです。



西村 祐二郎

(にしむら ゆうじろう)  
会 員 (1940年2月25日生  
80歳)

推薦理由

西村 祐二郎会員は、  
1963年に広島大学教育学  
部を卒業後、同大学大学院理学研究科修士課  
程および博士課程に進学した。1967年に山口  
大学に助手として赴任し、1974年には同大学  
理学部助教授となり、1984年には同大学教養  
部教授に昇任した。その後、1996年から同大  
学理学部教授を務め、2003年同大学を定年退  
職した。この間、1971年に理学博士の学位を  
取得し、2003年には山口大学名誉教授を授与  
された。

西村会員は、三郡変成岩・弱変成古生層の  
変成岩岩石学・年代学・テクトニクスに関す  
る研究を一貫して行ってきた。そのなかで、  
白雲母や角閃石のK-Ar年代を柴田賢氏との  
共同研究で行い、「三郡帯」が3つの高压変成  
帯の複合（三郡一蓮華帯、周防帯、智頭帯）  
であることを提唱した。その後、板谷徹丸氏  
と共同でスレート（ブドウ石—パンペリー石  
相程度の弱変成岩）から再結晶白雲母を高純  
度に分離してK-Ar年代を測定することに成  
功した。

中・古生代の弱変成岩が付加体とみなされ  
るようになった1980年代以降は、その手法を  
三郡—中国帯だけでなく、長崎変成岩、美濃  
—丹波帯や秩父帯などの付加体の変成年代の  
解明にも応用して、微化石による海洋プレ  
ート層序の復元と組み合わせることにより、日  
本列島の形成発達史を大きく書き換えた。

西村会員は、1962年に日本地質学会に入会  
し、1985年の第92年学術大会（山口大会）で  
は大会実行委員会の事務局長として大会を成  
功裏に導いた。また、2000年から2002年まで  
西日本支部長として支部活動の活性化に尽力  
した。

地域社会においては、35年に及ぶ山口大学  
での教育・研究成果を生かして、山口県土地  
分類基本調査員、山口県文化財保護審査会委  
員や山口県温泉審議会委員など、国や自治体  
の各種委員を多数務めた。このほか、改訂を  
8回も経た「山口県地質図（1/20万、1/15万）」  
やその説明書の出版に大いに関与した。また、  
1990年に第一学習社から出版された「山口  
県の岩石図鑑」はベストセラーとなり、今  
後の再版を望む声は大きい。

西村会員の地球科学に関する普及活動はこ

れらにとどまらず、地学のガイドシリーズ  
「山口県の地質とそのおいたち」、日曜の地学  
「山口県の地質をめぐって」など多数の著書  
を世に送り出した。山口大学退職後も、高校  
の「地学Ⅰ」、「理科総合A、B」の教科書や  
参考書、大学の「教養の地学」、「基礎地球  
科学」の執筆、日本地方地質誌「中国地方」の  
編集・執筆を行った。

以上のように、西村祐二郎会員の地質学に  
おける学術研究、教育、普及、そして日本地  
質学会の運営への多大な貢献は、日本地質学  
会の名誉会員として相応しいものと判断し、  
ここに推薦する。



小松 正幸

(こまつ まさゆき)  
会 員 (1941年8月6日生  
78歳)

推薦理由

小松正幸会員は、1965  
年に北海道大学理学部を  
卒業後、同大学大学院理学研究科修士課程お  
よび博士課程に進学した。1971年に新潟大学  
に助手として赴任し、1976年には同大学理学  
部助教授となり、1987年には愛媛大学理学部  
教授に昇任した。その後、1996年に同大学理  
学部長を務めた後、2003年から2009年に同大  
学学長に就任した。この間、1971年に理学博  
士の学位を取得し、2009年には愛媛大学名誉  
教授を授与された。

小松会員は、1965年代以降、北海道の日高  
変成帯に関する多数の地質学的研究成果を挙  
げ、従来の日高変成帯の解釈とはまったく異  
なる画期的な到達点を築き上げた。すなわ  
ち、1950年代以来提唱されていた地向斜造山  
運動にもとづく日高変成帯が、大陸性地殻と  
海洋性地殻の接合衝上体であることを明らか  
にした。これらの研究によって、日高変成帯  
のグラニュライト相を含む高温型変成岩類  
は、世界でも最も若い年代を示す構造体であ  
ることを示し、さらに下部地殻を含めた島弧  
および大陸性の地殻の形成に関して、画期的  
なモデルを提唱した。

小松会員の研究は日高変成帯にとどまら  
ず、神居古潭帯、中部日本の飛騨帯、飛騨外  
縁帯、上越帯、足尾帯および領家帯、さら  
には西南日本の領家帯など日本列島の主要な構  
造帯にも及んでいる。これら構造帯に産出す  
る蛇紋岩、オフィオライト、メラランジェ、高  
温型変成岩および高压型変成岩など広い分野  
にわたる研究対象について、多くの新事実を  
発見し、島弧地域における新しいテクトニク  
ス・モデルを提唱した。

また、これらの研究を通じて、自然を観察  
する野外研究の面白さや重要性を学生に伝  
え、第一線で活躍する地質技術者ならびに研  
究者を多数育成した。1993年には、日高変  
成帯をはじめとする日本列島の高温変成帯に  
ついての研究業績により、日本地質学会賞が授

与された。

小松会員は、1964年に日本地質学会に入会し、1988年から1994年に評議員を、1994年から1998年に副会長をそれぞれ務め、1998年から2002年に学会長としての重責を果たした。学会長として日本地質学会の様々な改革を行い、その後の学会法人化の基礎を築いた。また、2003年に日本学術会議第19期会員に就任し、日本の学術活動の発展に貢献した。加えて、2003年からの6年間は愛媛大学学長として国立大学法人化を機に大学改革を進め、日本を代表する地球科学分野の世界的な教育拠点となる「地球深部ダイナミクス研究センター」を設立させ、その発展に貢献したことは特筆に値する。

以上のように、小松正幸会員の地質学における学術研究、教育、普及、そして日本地質学会の運営への多大な貢献は、日本地質学会の名誉会員として相応しいものと判断し、ここに推薦する。

## 2020年度 日本地質学会各賞授賞理由

各賞選考委員会委員長 亀尾浩司

2020 年度各賞の授賞候補者および授賞候補論文について下記の通り報告いたします。

### 日本地質学会賞



授賞者：山路 敦会員  
(京都大学大学院理学研究科)

対象研究テーマ：理論テクトニクス研究による地殻変動史の解明

山路会員は、卓越した調査スキルによりフィールドから取得した質の高い定量的データに基づき、地質学と物理学のことばを通じた理論テクトニクス研究を長年にわたり進めてきた。研究当初には、グリーンタフ時代の変動がリフト形成に伴うものであることを地質調査によって明らかにし、日本海拡大に関する日本列島のテクトニクスモデルをフィールドデータに基づき提示した。その後、研究を地殻変動史の解明に集中させ、野外調査と理論的研究を統合する手法で、島弧の構造発達史の理解に大きく貢献した。その中で、2000年の多重逆解法 (Multiple inverse method) を始めとして、断層や変形構造に関する新たなデータ解析法を精力的に開発した。また、応力や歪みの解析ソフトウェアを独自に作成して国内外の地質学コミュニティへ広く公表し、新しい解析法の普及に尽力しただけではなく、構造変形に関する新たな描像の構築に貢献した。さらに、フィールド研究の経験を惑星科学に応用し、月の地下構造に関する新しい見方を提供した。

教育面においては、「フィールド・キャンプ」をたびたび開催するなど、野外調査の重要性、特に地質図作成法とフィールドデータの解析手法を内外の学生らに惜しみなく伝え、地質学コミュニティの裾野拡大とフィールド教育の継承・発展に貢献した。また、著書「理論テクトニクス入門」および「An Introduction to Tectonophysics」は、テクトニクスを物理現象として理解するための専門書として国内外から高い評価を得ている。

以上の研究・教育への尽力は、地質学雑誌 25 報、Island Arc 誌 4 報を含む 100 報以上の優れた論文として実を結んでいる。さらに、関連する研究分野の動向に関するレビュー論文等を国内誌に公表し、国内への情報発信を積極的に進めた。このように、理論テクトニクス研究を通じた地質学コミュニティへの貢献を続ける山路会員のたゆまぬ努力は賞賛に値する。

本学会運営に対する貢献として、地質学雑誌編集委員長を 3 期 6 年務め、学会誌の役

割が大きく変化する時期に「講座」に代表される新カテゴリーを創設するなど、学会誌の改善や月刊での出版継続に献身的に取り組んだ。また、本学会構造地質部会長として部会活動にも大きく貢献した。さらに平成 28 年からは本学会法務委員会委員長を務めている。

以上のような山路会員の業績と、地質学および日本地質学会の発展に果たしてきた貢献を鑑み、同氏を日本地質学会賞受賞者として推薦する。

### 日本地質学会 Island Arc 賞



対象論文：Wakabayashi, J., 2017, Serpentinities and serpentinites: Variety of origins and emplacement mechanisms of serpentinite bodies in

the California Cordillera. Island Arc, 26: e12205.

Although serpentinites have long been recognized as important recorders of tectonic processes, owing to their derivation from mantle peridotite, the lack of more detailed assessments of their origins and emplacement mechanisms hindered the understanding of their connection to orogenic processes. Based on field-intensive research, the author provided a more detailed framework, showing multiple origins and emplacement mechanisms of serpentinite bodies of the California Cordillera, where the lack of terminal collision resulted in better preservation of primary orogenic relationships. He showed that serpentinites fall into two groups of tectonic affinity, one for which serpentinites belonged to the upper plate of a convergent plate boundary throughout their history, and the other for which serpentinites originated on the subducting (lower plate) of a convergent plate system but were transferred to the upper plate as a result of subduction-accretion when the subduction thrust sliced into the downgoing plate. Both tectonic affinity groups have serpentinite bodies of two subtypes, one comprising intact, but variably deformed, tectonically-emplaced sheets of serpentinized peridotite, and the other consisting of clastic sedimentary serpentinite derived from exhumed serpentinite bodies. This work has been cited as providing a new guide for research on the connection between serpentinite and tectonic processes in the world's orogenic belts.

John Wakabayashi received his B.A. in Geology in 1980 from the University of California (UC) Berkeley, and his Ph.D. in



Geology in 1989 from UC Davis. After receiving his Ph.D., he worked as an engineering and environmental geologist for 16 years (1989-2005), the last 13 years as an independent consultant based in Hayward, California. In 2005 he moved to Fresno, California, to become a faculty member (now Professor of Geology) at the California State University Fresno where he has taught geology classes and conducted research since. During his applied geologic career, he worked on a variety of different projects in engineering and environmental geology, but also conducted and published research in varied aspects of tectonics and tectonic geomorphology. Since becoming an academic he has further expanded the range of his research. Most of his research focuses on active plate margin tectonics, including (1) the nature of subduction interface deformation and large-scale material movement as recorded in exhumed subduction complexes such as the Franciscan of California, across a range of temporal and spatial scales, (2) subduction

initiation processes,

(3) principal orogenic components, such as serpentinites, mélanges, high-P metamorphic rocks, and ocean plate stratigraphy, as recorders of orogenic processes, (4) connection between tectonic processes and metamorphic P-T evolution, and (5) evolution of transform fault systems. He also conducts research on long time and length scale geomorphology and linkages between surface processes and the clastic sedimentary record. A common theme of all of his research is the application of mobile reference frames to better understand the essentially four-dimensional processes of tectonics and/or geomorphology. Intensive field work, including detailed geologic mapping and petrography are also foundational components of much of his work.

#### 日本地質学会論文賞



対象論文：星 博幸，2018，中新世における西南日本の時計回り回転。地質学雑誌，124，675-691。

本論文は日本海拡大に関連した西南日本回転運動の現時点における総括である。本論文で著者は、西南日本の古地磁気についての直近25年間の自身のものも含んだ公表データを丁寧にレビューし、それらに基づいた中新世における西南日本の回転量、回転時期、および回転速度などを明らかにしている。本論文は総説だが、データレビューに基づく議論は

オリジナルであり、特に長い間15 Ma頃と信じられていた回転時期が、それよりも200-300万年早く終了したという説を、既存の年代データの丹念な見直しに基づいて立証した点は注目される。また、各地域の地質と断層運動を考慮して、回転量と回転速度についての議論を展開し、オリジナルな見積もりを得ている。これらの成果は著者が得意とする「丁寧な地質調査をベースにした年代学的・古地磁気学的調査」の一つの結実と言える。本論文は、中新世とその前後の日本列島地質発達史や古環境などの議論に影響を与えられ、高く評価される。以上の理由により、本論文を日本地質学会論文賞に推薦する。

#### 日本地質学会研究奨励賞



授賞者：菊川照英会員（伊藤忠石油開発株式会社）

対象論文：菊川照英・相田吉昭・亀尾浩司・小竹信宏，2018，鹿児島県種子島北部、熊毛層群西之

表層の地質。地質学雑誌，124，313-329。

本論文は鹿児島県種子島に分布する古第三系熊毛層群西之表層の詳細な地質について報告したものである。四十帯南帯に属する本層は、層序と地質構造に不明な点が多く、堆積年代と堆積環境の詳細についてはほとんど検討されていない。菊川らは精力的な野外調査によって岩相の空間分布を詳細に把握するとともに、複数のタクサの浮遊性微化石を系統的に調査した。その結果、西之表層が前期漸新世後期の堆積物であることや、生痕化石の検討に基づき本層が水深2000 mを超える深海で堆積したことを示した上で、北東—南西方向のスラスト群と褶曲構造によって同一層準が繰り返す地質構造も明らかにした。また、検討層準が九州南部の日南層群に対比されることを初めて示した。これらの成果は、西南日本外帯の形成史、ひいては新生代の日本列島形成史を理解する上で非常に重要な貢献である。菊川らの研究は、近年敬遠されがちな、地道な野外調査の積み重ねをベースとしており、まさに地質学の王道とも言える研究スタイルが実を結んだといえ、その研究成果は高く評価できる。この理由により、本論文の筆頭著者である菊川照英会員を日本地質学会研究奨励賞に推薦する。

#### 日本地質学会研究奨励賞



授賞者：羽地俊樹会員（京都大学大学院理学研究科）

対象論文：Haji, T., Hosoi, J., Yamaji, A., 2019, A middle Miocene post-rift stress regime

revealed by dikes and mesoscale faults in the Kakunodate area, NE Japan. Island

Arc, 28: e12304.

東北日本は、島弧テクトニクスについて種々のデータがそろそろ教科書的な地域である。この地域の中新世以降の応力場変遷に関する研究は、海外からもよく参照されている。しかし、日本海拡大が終わったとも言われる15 Ma頃より後の中期中新世の応力状態は、断層活動が不活発だったためこれまで不明確だった。その時代にNE-SW走向の岩脈が多いことは知られていたが、その方向が中間主応力軸なのか最大主応力軸なのかは明らかになっていなかった。羽地らは、丹念な地質調査の裏付けのもと、今世紀に入ってから発展した応力解析法を利用して、それが中間主応力軸の方向であり、この時代が弱引張の応力場であったという答えを導いた。本論文は、四半世紀にわたって欠けていた東北日本弧のテクトニクス史のピースを、実証的データに基づいて埋めることに成功した研究であり、その成果は高く評価できるものである。この理由により、本論文の筆頭著者である羽地俊樹会員を日本地質学会奨励賞に推薦する。

#### 日本地質学会表彰



授賞者：株式会社浜島書店  
表彰業績：図書教材出版を通じた地学教育への貢献

日本の地学教育は、小・中学校では教科「理科」の中で、高等学校では、文系クラス中心の2単位科目「地学基礎」と、より進んだ内容である4単位科目「地学」で進められている。これら地学についての学習は、主に「地学基礎」については5社、「地学」については2社から出版されている教科書によって支えられているが、数は少ないものの参考書も重要な役割を担っている。特に地球内部から海洋・大気、宇宙までの広大な空間や太陽系の形成、そして宇宙の誕生にまで及ぶ長大な時間スケールを学ぶ地学分野においては、図や写真等の視覚教材は学習を深めるうえで特に重要な役割を果たす。そうした中、名古屋市にある株式会社浜島書店は教科書出版社ではないにも関わらず、1968年以来、高等学校での利用を想定した図表集（現在の名称は『ニューステージ新地学図表』）の出版を続けている。この図表集は毎年アップデートされるとともに、数年に一度、露頭写真やイラストの多くが刷新される大きな改訂も行われて、最近の科学的知見が収録されてきた。そのため、大学の授業の参考書として採用される場合もあるほどで、その利用度は大変高い。必ずしも受講率が高いわけではない地学について、こうした図書教材を継続して出版し全国展開していることは、地学分野の教育と普及に大きな貢献を果たしている。株式会社浜島書店が果たした地学教育への貢献を称え、今後もこの図表集の改訂・出版が引



き続き行われることへの期待も込めて、株式会社浜島書店を日本地質学会表彰に推薦する。

#### 日本地質学会表彰



授賞者：鹿野和彦会員・  
斎藤 眞会員・川畑大作会  
員・尾崎正紀会員・巖谷  
敏光会員・脇田浩二会  
員・湯浅真人会員・坂 幸  
恭会員(故人)・斎藤靖二  
会員・宮下純夫会員、産

業技術総合研究所地質調査総合センター

表彰業績：地質図の標準化のための JIS A  
0204, JIS A 0205 の制定・改正への貢献

地質図を描くための JIS 規格が制定されたのは比較的最近である。国際的には、地質図表示の ISO 710 シリーズ (1974-1984) があったが、それは各国の事情に合わせられるよう基本的事柄だけが決められていたものであった。日本でも、2002 年以前、地質図を描くための公式なルールは存在しておらず、当時、地質コンサルタント会社はそれぞれ異なる様式の地質図を作成していた。このような状況で、鹿野和彦会員を中心に、ISO 710 などを参照して地質図の描き方の JIS 案が作成された。鹿野会員は湯浅真人会員と国内の学協会、業界団体、政府機関（独立行政法人を含む）からなる原案作成委員会（委員長：坂 幸恭 元副会長）を組織して JIS 原案を作成した。この原案は、2002 年に日本工業標準調査会の審議を経て JIS A 0204 として公示された後、公共事業で使われる地質図の表記が統一され、国、都道府県等の地質調査の納品要領としてこの JIS A 0204 が採用されることになった。2008 年には JIS A 0204 が改訂されると同時にデジタル地質図に必要な事項とコードを定めた JIS A 0205 が制定され、その後も 2012 年、2019 年と繰り返し JIS A 0204 と JIS A 0205 の改訂が行われて現在に至っている。これらの改訂に携わった原案作成委員会では、坂元副会長、斎藤靖二元会長、そして宮下純夫元会長が委員長を、鹿野和彦会員、斎藤 眞会員、尾崎正紀会員、脇田浩二会員、川畑大作会員、巖谷敏光会員、湯浅真人会員が事務局を務めてきた。

これら地質図に関する JIS は、公共事業での地質調査に広く使用され、地質学の社会実装に大きな役割を果たしたことは言うまでもない。それらに対する鹿野会員をはじめとする関係者及び産業技術総合研究所地質調査総合センターの貢献は特に大きいものであり、日本地質学会表彰に推薦する。

# CALENDAR

2020.7～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共) 共催、(後) 後援、(協) 協賛。

2020年

9月 September

○日本地球化学会2020年度年会

9月14日(月)～17日(木) [オンライン大会]

場所：弘前大学

<http://www.geochem.jp/index.html>

○日本鉱物科学会2020年年会・総会

9月16日(水)～18日(金) [オンライン大会]

会場：東北大学青葉キャンパス

<http://jams.la.coocan.jp/index.html>

○第37回歴史地震研究会(伊賀大会)

9月26日(土)～29日(火)

会場：ハイトピア伊賀(三重県伊賀市)

<http://www.histeq.jp/index.html>

○2020年度第1回(初心者向け)地質調査研修【参加者募集中】

9月28日(月)～10月2日(金)

主催：産総研コンソーシアム

室内座学：茨城県つくば市(産総研)

野外研修：茨城県ひたちなか市、福島県いわき市

定員6名(最小催行人数：4名)(定員になり次第締切)

<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2020-1.html>

10月 October

(協) テクノオーシャン2020

10月1日(木)～3日(土) [開催延期]

会場：神戸国際展示場

<https://www.techno-ocean.com/>

○日本応用地質学会令和2年度研究発表会(名古屋)

10月1日(木)～2日(金)

会場：名古屋国際会議場

<http://www.jseg.or.jp/index.html>

○ぼうさいこくたい2020

頻発化する大規模災害に備える

ー「みんなで減災」助け合いをひろげんさいー

10月3日(土) [オンライン大会]

会場：広島国際会議場

<http://bosai-kokutai.jp/>

○日本火山学会2020年度秋季大会

10月8日(木)～10日(土)

会場：名古屋大学

<http://www.kazan.or.jp/J/index.html>

(後) 藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立40周年記念 公開シンポジウム [中止]

「海と地球の自然史ー変わりゆく海洋環境から海洋プラスチックごみまで地球の問題を考えるー」

10月10日(土) 13:30～16:30

<http://fujiwara-nh.or.jp/>

○2020年度第2回(経験者向け)地質調査研修【参加者募集中】

10月26日(月)～30日(金)

主催：産総研コンソーシアム

場所：鳥根県出雲市長尾鼻周辺(小伊津海岸)

定員：6名(定員になり次第締切)

<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2020-2.html>

○日本地震学会2020年度秋季大会

[オンライン開催]

10月29日(木)～31日(土)

<https://www.zisin.or.jp/>

11月 November

○第74回日本人類学会大会

11月1日(日)～11月3日(火・祝) [オンライン大会]

会場：山梨大学医学部キャンパス

<http://anthrop-meeting.sakura.ne.jp/>

(協) 第36回ゼオライト研究発表会

11月19日(木)～20日(金)

場所：富山国際会議場

<https://jza-online.org/events>

12月 December

○地質学史懇話会

12月25日(金) 13:30より

会場：北とびあ 701号室(東京都北区王子)

志岐常正：戦後京大地質学教室史-その虚像と実像

矢島道子：『地質学者ナウマン伝』を上梓して

問い合わせ先：矢島 [pxi02070@nifty.com](mailto:pxi02070@nifty.com)

注意：新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行手中止の可能性もあります。実際の行事開催の有無については事前に各主催者、問い合わせ先にご確認ください。

## 各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

### 第42回（令和2年） 沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的として、昭和54年に創設されました。本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学、人文科学、社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ）の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。

応募資格：

- (1) 沖縄を対象とした優れた研究を行っている
- (2) 令和2年7月15日現在で50歳以下
- (3) 学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた者
- (4) 出身地および国籍は問わない

応募方法：

- (1) 「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」
- (2) 研究成果物（論文3点以内、著書がある場合は1冊）。
- (3) 研究成果物（論文または著者）の要旨（A4判横書き1,000字以内）、要旨は日本語とする。
- (4) 主な研究業績の目録（著書、論文等30点以内）

応募締切は9月30日となっていますので、**推薦を希望される方は9月4日（金）までに、執行理事会宛にご連絡下さい。**推薦応募用紙は、<http://www.okinawakyoukai.jp/publics/index/52/> からダウンロードして下さい。  
書類提出先・お問い合わせ：  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-7-3  
公益財団法人沖縄協会「沖縄研究奨励賞」係  
e-mail:okinawakyoukai@okinawakyoukai.jp  
TEL：098-997-3011  
FAX：098-997-2678  
<http://www.okinawakyoukai.jp/>

### 第61回東レ科学技術賞および 東レ科学技術研究助成の 候補者推薦

#### 1. 東レ科学技術賞

候補者の対象：(1) 学術上の業績が顕著な方 (2) 学術上重要な発見をした方 (3) 効果が大きい重要な発明をした方 (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献

した方

賞：1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円（2件以内）  
締切：2020年10月9日（金）必着（学会締切：9月25日）

#### 2. 東レ科学技術研究助成

候補者の対象：国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽の研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）。本助成が重要な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。

申請の基となった研究が海外で行われていても差し支えありません。

助成金額：総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度とします。

締切：2020年10月9日（金）必着（学会締切：9月25日）

\*推薦をご希望の方は、上記学会締切までに執行理事会宛に応募書類をお送り下さい。

\*各推薦書要旨は、ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.toray-sf.or.jp>

問い合わせ先

公益財団法人東レ科学振興会

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町3丁目3番16号（日本橋室町ビル7階）

Tel：(03)6262-1655 Fax：(03)6262-1901

<http://www.toray-sf.or.jp>

### 日本アイソトープ協会 奨励賞募集

日本アイソトープ協会は、放射性同位体及び放射線利用研究において、基礎及び応用に関し、独創的かつ顕著な成果を発表し、将来の利用拡大・発展への寄与が期待できる個人に対する表彰をしています。自薦・他薦を問わず、広く候補者を募集しますので、ぜひご応募ください。なお、下記応募資格を満たせば、再応募も可能です。

分野：研究分野は理工・ライフサイエンス分野とし、以下にその研究領域例を記す。

1. アイソトープの製造研究及び理工学、農学、獣医学、薬学、医学におけるその利用研究
2. 放射線測定の基礎及び放射線測定機器開発研究
3. 放射線関連の物理・化学・生物学基礎研究
4. 放射線が関係する環境科学研究
5. アイソトープ利用促進をスコープとした活動

応募資格：以下の条件を満たす者。

2021年4月1日において、満45歳未満、または博士の学位取得後10年以内の者。ただし、出産・育児・介護等のライフイベントによる休

業期間及び研究開始猶予期間を考慮する。過去において本賞を受賞していないこと。

**応募締切：2020年10月30日（金）**

応募書類等詳細についてはホームページよりご確認ください。

<https://www.jrias.or.jp/report/cat1/309.html>

お問合せ先

日本アイソトープ協会奨励賞事務局

学術振興部学術課

TEL：03-5395-8081

### 「朝日賞」候補者推薦依頼

朝日新聞社、朝日新聞文化財団より、標記の推薦依頼がありましたので、お知らせします。

「朝日賞」は、1929年（昭和4年）に朝日新聞創刊50周年記念事業として創設しました。人文や自然科学など、我が国の様々な分野において傑出した業績をあげ、文化や社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体に贈られます。年齢、国籍に制限はありません。

推薦書は2020年8月25日（火）までに、所定様式送付となりますので、**推薦を希望される方は8月3日（月）までに、執行理事会宛にご連絡下さい。**

推薦票は下記WEBからダウンロードできますが、パスワードが必要です。希望される方は学会事務局までお問い合わせ下さい。

<http://t.asahi.com/asap4>

問い合わせ先：

朝日新聞社CSR推進部「朝日賞」事務局

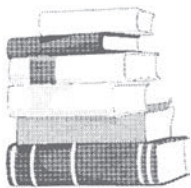
〒104-8001 東京都中央区築地5-3-2

TEL（直通）03-5540-7453

FAX 03-3541-8999

<http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/>





## 紹介

### 静岡の大規模自然災害の科学

岩田孝仁・北村晃寿・  
小山真人（編）



静岡新聞社、2020年3月31日発行、  
256ページ、1,600円（＋税）、  
ISBN 978-4-7838-0555-7

2011年の東日本大震災以降、自然災害に対する社会の関心は飛躍的に高まった。地質・地形記録に基づき、先史時代にまで遡り低頻度巨大災害を調べる研究は、国のみならず地方自治体の防災計画立案上、いまや不可欠となっている。筆者は静岡県の沿岸部出身ということもあり、子供のころから東海地震が近々来ると教育され、ヘルメットを着用して通学するのが当たり前であった。現在では、静岡県の防災関係の委員も務めており、静岡県の災害については特に強い関心を持っている。そんな折、本書を手にした。

本書は、静岡大学防災総合センターの教員陣が中心となって執筆されている。内容は、東北地方太平洋沖地震と巨大津波（第一部）、静岡県の地震・津波（第二部）、富士山・伊豆東部火山群の噴火（第三部）、静岡県の自然災害と防災（第四部）の四部構成となっている。静岡県に限定された内容かと思っていたが、静岡県の自然災害を切り口としながらも、地球科学や災害科学の要点が効率的に押さえられており、教科書的な活用もできる内容になっていることに読み進めて気がついた。また、隣接するふじのくに地球環境史ミュージアムと連携して行われている、防災教育やアウトリーチ活動についても紹介されている。防災に関わる研究は、その成果が一般

に知られ、活用されることにより価値が大きく増す。その点で、地域の大学と博物館が緊密に連携してアウトリーチに取り組むことで、防災教育上大きな効果を生み出すと期待でき、静岡県で行われているのはその先進事例の一つだと思われる。

国が定めた津波レベル（L1, L2）の議論も興味深い。L1は歴史記録等に基づく頻度の高い津波である一方、L2は想定しうる最大規模の津波とされており、過去に実際に起きたかどうかは必ずしも問われていない。そのため、物証が不十分な過大想定により、社会に過度の対策を求めてしまう恐れもある。その一方で、巨大地震がひとたび発生すれば、静岡県では津波到達まで避難の時間がほとんどない地域があるため、過小評価は許されない。適切な事前防災が不可欠であるという観点に立てば、L1かL2かにこだわることなく、歴史記録や長期の地質記録に立脚して地域の実情に即した防災計画を策定することが重要である。

静岡県で発生しうる自然災害は、もちろん地震や津波だけではない。300年以上静穏な状態を保っている富士山の今後大変気になるところである。宝永年間の1707年に起きたように、巨大地震・津波と近接した時期に富士山が噴火すれば、より困難な状況になる。偶然にも台風シーズンに当たるかもしれない。鉄道や高速道路など物流の大動脈を担っている静岡県が機能しなくなれば、国難と呼ぶべき状況に日本が陥ることは容易に想像できる。多様なケースが考えうるが、東日本大震災の教訓を顧みれば、やはり最新の科学的知見に基づいて想定を繰り返し見直し、着実に防災力を向上させるしかないのだろう。

ところで、筆者が子供のころには馴染みのなかった『南海トラフ（巨大地震）』という言葉がいつから一般に使われたのか気になり、グーグルトレンドを使って調べてみた。どうやら、東日本大震災の発災時点ではまだ一般的には使われておらず、2012年の夏ごろになってから頻繁に使われるようになった。この時期には、内閣府により南海トラフ巨大地震の最大クラスの断層モデル（L2クラス）が提示された。一方、私が子供のころに耳にした東海地震という言葉は、もはや社会的にはほとんど使われていないようである。このような興味深い社会の変化は、東日本大震災を目の当たりにし、次に南海トラフ沿いで起きる地震と津波は東海地方に限定されたものではなく、2012年に発表された最大クラスのものではないかという恐れから起きたのだと思われる。やや過剰な反応のように思える一方、南海トラフ沿いの運動型巨大地震は歴史的にも起きており、より実態に即して理解が進み、過小評価を防ぐ方向に社会が動いたと理解することもできる。

災害に関わる研究の大きな目的は、理学的な真理の探究に留まらず、被害軽減にまで貢献することにある。そのために、過去の自然災害についての正しい知識を社会に提供し続

けることは、災害に関わる地質学者の責務であろう。私自身にとっても、本書は災害大国日本で地質学者が担うべき役割の重要性を改めて考え直すきっかけとなった。

（後藤和久）

### 見えない絶景： 深海底巨大地形

藤岡換太郎著



講談社ブルーバックス、  
2020年5月20日発行、254ページ、  
1,000円＋税、ISBN 978-4-06-517904-8

本書は、世界の深海の大地形への仮想的有人深海潜水船「ヴァーチャル・ブルー」を用いた地球一周の旅行記の形を取った、いわゆる科学読み物である。深海底の地形は、海底下故一般には一望することはできないが、有人潜水船の窓からは肉眼での観察が（最大の視界は10 m程度であるが）可能である。そこで、ルートを工夫しつつなご合わせると、大地形全体を眺めることが可能となり、それからいわゆる「見えない絶景」の眺望が実現する、という実体験の融合で世界一周ができる、という趣向である。内容のほとんどが著者(藤岡氏) 自らの目視観察による実際の観察と独創的な発想と解釈を組み合わせて構成されており、たぐいまれなノンフィクションとSFとを兼ねた読み物となっている。新書一冊に、これだけの内容を詰め込んだ著者の経験と才能に敬服したい。まさに、ブルーバックスの発刊当時（1963年）の講談社社長の言葉、「科学をあなたのポケットに」の通りである。海洋地球科学研究者であった著者のブルーバックスシリーズのなんと6冊目のものという。ほかの出版物も含めると、ゆうに10冊を超えよう。実に多作なサイエンスライターだ。内容は互いに類似・重複する部分がないとはいえないが、切り口はそれぞれ異な

る。今回の論調は、地球の特に深海の大地形の実録的観察に、諸研究者との交流に基づいた経験を加えて、著者の和漢洋の文才が融合し、読むものを楽しませてくれる。対象とする読者は、広く国民一般と思われ、表現や図・写真などの多くは基礎的である。やや専門的な内容も含まれるが、いわゆる論文や専門書・教科書ではない。それゆえ極端に厳密な表現よりも、読者をひきつけるエンターテインメント性を重視している部分もある。昨今では、国民の地球や宇宙についての知識、欲求、意識は非常に高いものになっている。そのような人や、すでに地球科学・宇宙科学（地学）を学んだ、あるいはこれから学ぼうとする人（高校・大学生など）と隣接する分野の専門家などのために、巻末に参考図書の紹介もある。

本書は、はじめにに続く5章からなっている。第1章の深海底世界一周は、潜水科学の歴史と、深海潜水船を用いた巨大地形の解説である。仮想的有人深海潜水船「ヴァーチャル・ブルー」に乗り込んで、リアルな大絶景を眺めつつ、周辺の地学的な説明を続けていく。ルートは、地球の大円に沿って、宮古沖の日本海溝（2011東北沖地震などの巨大地震の震央域）に始まり、太平洋・大西洋・インド洋の中央海嶺と海台をめぐり、最後に房総沖三重点の坂東深海盆で終わる。その途中には、空中を飛ぶ「ヴァーチャル・ブルー」の「特性」を活かして、ハワイ諸島、アンデス山地、ヒマラヤ山地などにも立ち寄るといふ、世界一周の素晴らしい大旅行を楽しめる。そのほとんどの深海域に一番乗りしたというから、著者の深海および陸上へのあくなき探検的研究態度に驚くばかりである。第2章は、深海底巨大地形の謎に挑むという内容で、近年のこの分野の研究成果を、深海になぜ大地形が発達するのか、などの謎解きの形で解説する。これも著者が首席あるいは主要乗船研究者として参加した研究航海を中心とした実録と成果をもとにしており、現代科学史としての意味もある。第3章は、プレートテクトニクスのはじまりとあるように、3次元的なプレートの移動の原因と理由付けを、地球形成初期（冥王代）のマグマオーシャン、コマチアイトプレートなどの比較的新しい説を中心として、独自の観点から意欲的に解説する。それはハワイの溶岩湖でのマグマの移動を用いてプレートの形成（上昇と拡大）、沈み込み、トランスフォーム断層を解説したW.A.ダフィーの先駆的な天然実験を紹介する。第1,2,3章とも、実際著者が実物を見てきたことによらなければこれほどの臨場感あふれる表現はできないと思われるほど真に迫る。まさに本物の理科教育である。

第4章は、著者が著作中に興が乗って、これを書かずに終われないと思ったとあるごとく、マグマオーシャンという地球創成期（冥王代）のある種の海をめぐる最近の研究への解釈（コマチアイトプレート説、ジャイアントインパクト説など）を含めて解説してあ

る。終章では地質学（広義には、固体地球科学全体を含むほど、現代の地質学は広がっているが）の、古くて新しい問題である斉一致説と天変地異説間の葛藤を、本書のメインテーマである深海底巨大地形形成論と冥王代のジャイアントインパクトなどに照らし合わせて解説し、後者の説に軍配を上げる。さらに最近の宇宙論・素粒子論におけるダークマターなども引用し、地球と生命の共進化に及ぶとの新しいパラダイムの考察も怠らない。このフィナーレは圧倒的な盛り上がりを見せる。以上、若干欲張りともいえる内容だが、これはこの著者にあって初めてなしうるものであり、肉眼による深海底の観察を続けてきた著者の成果の集大成であるといえる。

本書を一読して分かることは、深海潜水研究での経験を単なる旅行記にとどめず、新しいものに会ったときに、既存の概念と理論（原理）とに基づく成因論を、新しいそれらとを融合させて、次代のものへと止揚しパラダイム変換へと進むというサイエンスの革新的作業が、今回、深海底巨大地形とその意義というテーマに凝縮した、といえる。海洋研究は、個人でできることは限られ、多くは立案の計画から、実際の研究船の運航、航海中の安全を含めて、乗船者すべてによる共同作業である。特に、潜水航海にあつては、母船の乗船研究者・技術支援者・船長・機関長・一等航海士など、さらに特に潜水航海では運航チーム（パイロットと技術者集団）らとの、心を一にしたワンチームでの取り組みが欠かせない。それらの仕事には、単なるサイエンスとテクノロジーの枠を超えた人間的な

要素が必要だ。著者と一緒に乗船して絶えず感じたことではあるが、著者にはその役割における才能が卓越している。その成果が、本書に結実している。

なお、個々の細かいことになるが、重要な箇所では、著者の独自の解釈や説明が見られるのも、本書の特色ではある。が、この分野は日進月歩である。導かれる解釈や理解が真実に近いかは、今後も変わってくるかもしれない。地球の層構造、沈み込みのタイプ分け（チリ型・マリアナ型）、また付加体の形成条件などのおおよそは確立されているが（第一次近似）、詳細な発達史や因果関係に関しての研究は、今後も発展すると思われる。また、図の多くは力作だが、一部若干分かりにくい箇所も散見される。今後機会を得て改訂・補足していただければありがたい。アドバンスコースの方は、最後の参考図書（特に、中西・沖野の教科書、東大出版会）を用いてよりハイレベルの勉強が可能であるが、そのリストにはない以下の2冊を蛇足ながら示したい。

Frisch, W. et al., 2011, Plate tectonics, Springer-Verlag, 212p, ISBN 978-3-540-7653-5（美しい図満載のプレートテクトニクスと造山運動に関する教科書）

Harff, J. et al., eds., 2016, Encyclopedia of marine geosciences, Springer-Verlag, 961p, ISBN 978-94-007-6238-1（5年をかけて編集された海洋地球科学の大冊の百科事典）

（小川勇二郎）

## 表紙紹介

### 断層運動によって生じた球状ブロック

正会員 後藤繁俊（株式会社九州土木設計コンサルタント）

西南日本外帯の四万十累層群は、衝上断層（せん断応力）が卓越する付加体である。写真は、宮崎県日向市の四万十累層群中に見られる直径10 mに達する球状のテクトニックブロック（球状ブロック；砂岩）である。地下の脆性－延性転移領域において、テクトニックブロックを含む泥質岩が断層運動によりせん断変形を被ると、砂岩は脆性的、泥質岩は延性的挙動をとる。この延性度較差（ductility contrast）により砂岩（テクトニックブロック）の縁辺部が破断するとき、破断部に構成鉱物が溶融する温度圧力条件が生じる。この圧力破砕によって生じた流体は砂岩と泥質岩の境界部に沿って流れやすく、砂岩を丸く切り取ると考えている。

よって、この巨大な球状ブロックは、過去の巨大なプレート境界地震によって生じた可能性があるといえる。





左から、写真1 葦崎岩屑流 (白い層の上) と黒富士の軽石 (白い層)、写真2 昇仙峡、写真3 大滝。

## TOPIC

### 昇仙峡は黒富士が造った？： 「地質図Navi」と「地理院地図」で楽しむ四次元の旅 (前編)

高山信紀 (正会員)

#### まえがき

本記事は、山梨県甲府市北部に位置する昇仙峡、野猿谷、大滝と仙娥滝 (図-1、図-2) の成り立ちについてのアイデアとそれに基づいて机上で検討した内容を述べたものである。検討は、産総研地質調査総合センターウェブサイト「地質図Navi」、国土地理院ウェブサイト「地理院地図」と書籍やインターネットで公開されている文献により行った。

昇仙峡は、花崗岩の中を富士川水系荒川が流下し、仙娥滝など美しい渓谷で国の特別名勝に指定されている。昇仙峡上流の荒川本流にはV字谷の野猿谷が、荒川支流の板敷溪谷には高さ約30mの大滝がある。また、昇仙峡の北には、黒富士火山の溶岩円頂丘の一つである黒富士 (標高1,633m) がある。黒富士火山は、デイサイト質の火山で、約100万年前～約50万年前 (更新世カラブリアン～チバニアン) に活動し、周辺には多量の火砕流堆積物が分布している<sup>1), 2), 3), 4)</sup>。周辺の地質概要を図-1に示す。

#### 1. 検討のきっかけ

(1) 巡検と黒富士登山 2018年6月、筆者 (地形、地質に興味を持つ元土木技術者) は、日本地質学会中部支部の地質巡検「南部フォッサマグナ北縁地域の変動地質」 (案内者：山梨大学の福地龍郎氏<sup>5)</sup>) に参加した。葦崎岩屑流の台地から釜無川の穴山橋 (図-1) に下りる途中の崖に白い堆積物があつた (写真-1)。同行の方に伺ったところ、「これは黒富士の軽石である。黒富士という名前はある所から眺めると富士山の傍らに黒い富士のように見えることから名付けられたようだ。」と教えて頂いた。軽石の白と名前の黒のコントラストが心に残り、行ってみたいと強く思った。



2019年5月、友人達と1泊2日の行程で黒富士に登った。初日は、甲府駅からバスで昇仙峡に行き、徒歩で昇仙峡 (写真-2)、荒川ダム、大滝 (写真-3)、野猿谷を廻り、燕岩 (黒富士を中心とする放射状岩脈のうちの一つで国の天然記念物) を見学し、近くのマウントピア黒平に宿泊した。翌日、黒富士峠に登り、雪が残る八ヶ岳、北アルプス、南アルプスの山々、白く輝く富士山とその傍らの黒富士 (写真-4) を眺め、黒富士に登頂した。その後、亀沢川に沿って下り、草鹿沢沿いを上り、峠を経て金桜神社を参拝し、御岳川に沿って昇仙峡に戻った (図-1)。

(2) 昇仙峡形成のアイデア 黒富士登山から戻り、「地質図Navi」を使って5万分の1地質図「御岳昇仙峡」<sup>2)</sup> で黒富士火砕流の分布を確認している時、水ヶ森火山岩の窪平泥流堆積物 (図-1、図-2のMm) が板敷溪谷上流、荒川ダム下流、御岳川上流、草鹿沢、亀沢川に分布していることに気づいた。一般に、泥流は河川に沿って流下すると考え、当時の荒川は御岳川から草鹿沢、亀沢川に流れていたが、黒富士火砕流で堰き止められて昇仙峡に流れを変えたのではないかとのアイデアが浮かんだ。

(3) 野猿谷形成の友人のアイデア このアイデアと一緒に黒富士に登った友人に伝えた数日後、返信のメールが来た。「荒川上流で目を引く地形は野猿谷の峡谷です。その斜面は両岸共に45～50°と急で、谷の断面は典型的なV字を成しています。この峡谷は、ある事件の結果荒川が流路をここに定めて激しく下刻して出来た可能性があります。その事件は黒富士火砕流です。この火砕流により黒平付近から猫坂の西方に流れていた旧荒川が猫坂付近で堰き止められ、現在の野猿谷にあった鞍部から水があふれ出したと考えました。」 (図-2)。

筆者は漠然と野猿谷は黒富士火砕流以前から存在していたと思っていたので、このアイデアは目から鱗であった。黒富士火砕流前の荒川を「旧荒川」、板敷溪谷から旧荒川に合流していた河川を「旧板敷川」と記す (図-2)。

(4) 層雲峡にて 2019年7月、上記のメールを受けた翌週、筆者は、大雪山国立公園の黒岳に登った後、層雲峡ビジターセンターを訪れた。そこで、約3万年前、御鉢平カルデラの火砕流が石狩川を堰き止め巨大な湖ができ、まもなく湖水があふれ出して侵食により層雲峡が形成されたことを知った (北海道上川振興局ウェブサイト「大雪もののしり百科：自然編 大雪山の歴史」)。黒富士火砕流による「旧荒川」堰き止めのアイデアと同じようなことが層雲峡で起こっていたのだ！北海道の旅から戻り、このアイデアが成り立つか

写真4 黒富士峠からの黒富士と富士山。



検討を始めた。主な検討内容を以下に述べる。

## 2. 検討内容

(1) 昇仙峡の形成 昇仙峡の形成を以下のように考えた。水ヶ森北部にあった山体が崩壊し泥流となって板敷溪谷から駆け下りた。当時は昇仙峡は無く、泥流は、花崗岩山体に行く手を阻まれて一部は山体を駆け上がり、当時の河川(「旧板敷川」)に沿って現在の御岳川から草鹿沢、亀沢川へ流下し、その周辺に堆積した(窪平泥流堆積物)。その後、黒富士火砕流が「旧荒川」を堰き止め、花崗岩山体が流れを阻み昇仙峡上流に堰止湖が生じた。まもなく(数年程度)花崗岩山体の鞍部から湖水があふれ出し、花崗岩の侵食が促進され、縦方向の割れ目に沿って岩が崩落して昇仙峡の峡谷が形成され、荒川の流路変更が起こった。池田は、尖峰の形成に、花崗岩の性質のうち、とくに割れ目の間隔が重要な影響を与える<sup>6)</sup>と述べている。(図-2)

三村らは、「黒富士火砕流堆積物は大きく5層に分けられ、各層相互の間には火山活動の休止期を明瞭に指示する湖沼堆積物が挟在する」<sup>2)</sup>、「最初の活動を示す火砕流堆積物は1.0Ma。そして山頂の溶岩円頂丘群は0.5Maである。この間に大規模な火砕流の流出時期は時間間隔を挟んで5回を数える。したがって、黒富士火山における規模の大きな火砕流の流出は、単純に計算すると約10万年毎に繰り返されたことになる。」<sup>3)</sup>と述べている。以下、黒富士第1期火砕流～第5期火砕流を「K1火砕流」～「K5火砕流」と記す。

地形図と5万分の1地質図「御岳昇仙峡」によれば、御岳川と草鹿沢の間は標高約900m以上の尾根で、「K3火砕流」が広く分布し、峠(図-2、標高約910m)より北では「K2火砕流」が標高約920mまで分布している。堰き止め箇所の横断面図(想像)を図-3①に示す(なお、「旧荒川」のルートと縦断面は(3)に後述する)。「旧板敷川」の堰き止めは「K2火砕流」による可能性が高く、遅くとも約80万年前の「K3火砕流」により確実に行われたと推定した。

堰き止められた水があふれだした花崗岩山体の鞍部は、現在の荒川の流路付近で、その標高は約900m以下と考えた。現在、標高900m以上の箇所は、峡谷の右岸では羅漢寺山(標高1,058m)周辺だけであり、その対岸にも標高900m以上の尾根があるので、鞍部はこれらの間にあったと推定した(図-2、図-4(a))。現在の河床には仙娥滝(河床標高約670m、「地理院地図」の断面図機能を使用)があり、下刻量は最大約230mとなる。

(2) 野猿谷の形成 (1)で述べた昇仙峡と似たことが野猿谷周辺でも起こった。猫坂(標高約1,130m)付近は黒富士から四万十層群山体につながる標高1,100m以上の尾根(最低標高は約1,110m)で、「K3火砕流」などが分布するほか、局所的ではあるが最低標高あたりには「K2火砕流」が分布している(図-2、図-3②)。これより、猫坂付近における「旧荒川」の堰き止めも、昇仙峡と同様、約90万年前の「K2火砕流」による可能性が高く、約80万年前の「K3火砕流」では確実にあったと考えた。

堰き止められた水があふれだした四万十層群山体の鞍部は、標高約1,100m以下で、現在の野猿谷左右岸の高所を結ぶ箇所にあったと考えた(図-2、図-4(b))。現在、そこは標高約830mの河床となっており、下刻量は最大で約270mとなる。ところで、野猿谷の中間部に大きい屈曲がある(図-2)。何故屈曲しているのだろうか?局所的な地質の違いかもしれないが、野猿谷が出来る前に四万十層群山体の鞍部をはさんで北に下る沢と南に下る沢が平面的に少しずれて存在していたが、鞍部が侵食・下刻されて両方の沢がつながり屈曲部となったと想像した。

野猿谷のV字谷はどのようにして出来たのだろうか?文



図-1 周辺地質概要

献<sup>7)</sup>を基に以下のように考えた。四万十層群山体の侵食に対する抵抗性が強く、かつ左右岸ほぼ同じで、また、四万十層群の走向傾斜<sup>2)</sup>が左右岸の一方が受盤、他方が流れ盤という状態ではない。このため、下刻に伴い左右岸対称のV字谷となった。

(後編へ続く)

## 参考文献

- 1) 三村弘二(1967) 黒富士火山の火山層序学的研究, 地球科学 21巻3号
- 2) 三村弘二・加藤祐三・片田正人(1978) 5万分の1地質図幅「御岳昇仙峡地域の地質」, 地質調査所
- 3) 三村弘二・柴田賢・内海茂(1994) 黒富士火山と甲府盆地北方に分布する火山岩類の火山活動とK-Ar年代, 岩鉱
- 4) 尾崎正紀他(2002) 20万分の1地質図幅「甲府」, 産業技術総合研究所地質調査センター
- 5) 福地龍郎, 鈴木俊(2018) 2018年中部支部年会・シンポジウム・地質巡検報告, 日本地質学会News Vol.21 No.8 支部コーナー
- 6) 池田 碩(1998) 花崗岩地形の世界p126, 古今書院
- 7) 小口 高(2015) 東アジアの山地におけるV字谷の地形学的特徴と形成要因の研究, 科学研究費助成事業研究成果報告書

次号の後編では、「旧荒川」、「旧板敷川」のルートと縦断面、大滝、仙娥滝の成り立ちについて述べる。

なお、以下の図も含め全ての図・写真は学会HPにカラー版を掲載しています。

<http://www.geosociety.jp/faq/content0915.html>

図-2 現在の荒川と黒富士火砕流前の「旧荒川」

図-3 「旧荒川」の横断面(想像)

図-4 鞍部の断面

# 日本地質学会第1回・第2回ショートコース開催のご案内

本年秋の学術大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止（来年に順延）になったことを受け、その代替企画について執行理事会が中心となって検討してきました。その結果、代替企画の一つとして「日本地質学会ショートコース」を開催することになりました。検討を進める中で、大学の地球惑星科学系学科では地質学の基礎的内容でありながら学科構成スタッフの偏りのために学部生や大学院生に十分教えられていないトピックがあり、そうした内容を本学会が少しでもカバーできないかという意見がありました。また、地質技術者や学校教員、学芸員等が現在の地質学の知見や研究方法等について学ぶ機会があると良いという意見もありました。こうした意見を踏まえて、地質学の土台を支える基礎知識や最近ホットな研究の話題など、会員・非会員を問わず多くの方々に知っていただきたいトピックを「日本地質学会ショートコース」で紹介することになりました。本年9月19日（土）に第1回目を、10月24日（土）に第2回目をオンラインで開催し、各回2名の研究者に話題提供していただきます（午前1名、午後1名）。その道の精鋭によるコースをぜひこの機会に受講していただきたいと思います。

2020年7月11日

日本地質学会行事委員長 星 博幸

## 第1回

日程：2020年9月19日（土）

内容：（各コース、講義、質疑応答を含め3時間程度を予定）

＜午前＞ 東北アジア及び日本列島の地質構造発達史：辻森 樹（東北大学）

<https://researchmap.jp/tatsukix>

日本列島の地質構造発達史は、列島各地の研究成果の集積とともに、より確からしいものへと段階的に改訂されてきました。長寿命の太平洋型造山帯として、列島には数億年間にわたる大陸縁のダイナミックな変動が記録されています。さらに、身近な郷土の地形、そして気候や生態系にも、その地体構造の不連続が影響を及ぼしています。本コースでは、日本列島の地体構造を考える上で基本となる構造線や基盤の不連続境界など、列島の大構造を復習します。また、すさまじい勢いで理解が進んできた東北アジアの地質学的新知見を総括し、その発達史と大構造について学習します。その他、一家に1枚「日本列島7億年ポスター」制作秘話も紹介します。

＜午後＞ 大陸成長から見たのしい太古代研究：沢田 輝（海洋研究開発機構）

<https://researchmap.jp/hsawada>

25億年以上前の太古代地質というと、活動的な造山帯の日本からは遠い海外の地質というイメージがあるかもしれません。一方、成長し続ける西之島のよう、日本の地質環境と地球史初期との類似性が見出されてもいます。プレート沈み込みや島弧火成活動といった、日本列島では身近に感じる地球の活動。太古代地球はどのような形であったのか？ 今の地球とどの程度異なっていたのか？ いま論争となっている部分を中心に、わかっているようでわかっていない太古代地球について、主に大陸成長研究の側面から、その難しさとたのしさを紹介します。講演や学会発表とは一味違う濃厚な時間を提供できればと思います。

## 第2回

日程：2020年10月24日（土）

内容：（各コース、講義、質疑応答を含め3時間程度を予定）

＜午前＞ 層序学の基礎と応用：高嶋礼詩（東北大学）

<https://researchmap.jp/read0155080>

本コースでは層序学の基礎編として、岩相層序、生層序、古地磁気層序、化学層序（酸素、炭素、ストロンチウム、オスミウム同位体比層序）、サイクル層序、年代層序の概要を解説します。そしてこれらの層序学的手法を用いた国際標準年代尺度の作成、GSSPの認定、日本の地層での研究例を紹介します。応用編では、アパタイト微量元素組成を用いたオルドビス紀～第四紀のテフラ層序の研究を紹介します。この手法を用いると、埋没結成、溶結、風化などによって火山ガラスが変質した凝灰岩についても高精度で対比可能になります。日本には変質した凝灰岩の露出が卓越する地域がよくみられることから、ジルコン年代と組み合わせることにより、日本の地層の対比精度向上への貢献が期待できます。

＜午後＞ 統計解析言語Rを用いた地球科学データ解析基礎実習：上木賢太（海洋研究開発機構）

<https://researchmap.jp/kentaueki>

多変量解析や数理に基づくデータ解析は、地球科学においても年々その重要性を増しています。本講座では、実際の地球科学データを題材として、データ解析の実習を行います。講義として、多変量解析や線形回帰、モデル選択などの概念を解説するとともに、地球科学、特に岩石化学組成へ適用した研究の例を示します。さらに実習として、統計解析向けの言語及び実行環境フリーソフトウェアである「R」を用いて、基礎的な解析を各自のパソコン環境上で実際に行います。通常のパソコン環境が整っていれば問題なく実習を行うことが可能です。必要な事前準備（RおよびR studioのインストール）のための資料や、実習で使用するデータ等は事前に配布します。

参加費（各1日券）会員 2000円（賛助会員に所属する方は会員と同額）/非会員 4000円

（注）非会員の学部生・院生は「会員」料金に含まれます。「非会員」とは学部生・院生ではない非会員とします。

（注）午前のみ、午後をみの受講の場合も、参加費の割引はありません。

定員：各コース100名（定員は事務局および講師を含み、定員を超えた場合は、会員が優先となります）

申込方法：学会ホームページの専用申込画面よりお申込みください（準備中）。

その他：希望者には各コース毎のCPD受講証明書を発行します。

申込受付期間：（第1回）8月中旬～9月7日（月）/（第2回）9月下旬～10月12日（月）

問い合わせ先：一般社団法人日本地質学会

メールmain@geosociety.jp 電話 03-5823-1150



# 一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日 日本地質学会総会制定  
2009年12月5日 一般社団法人日本地質学会制定\*

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。
2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。
3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。
4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。
5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

\*2009年12月5日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

## 一般社団法人日本地質学会行動規範

2011年9月8日 一般社団法人日本地質学会理事会制定

日本地質学会が他機関や組織との連携事業を実施する際に、学会員の立場や責任について、学会員ならびに社会に明示するため、一定の規範が必要であるとの認識のもとに、本会倫理綱領を踏まえて行動規範を定めるものである。

(透明性、説明責任)

1. 会員は、地質学・地球科学分野の進展とその成果が与える社会的影響を自覚し、公益性の観点から客観的事実を明らかにするよう努力すると同時に、事実を社会に周知するよう努力する。
2. 会員は、専門の業務において、その目的・方法・成果等について、要求された場合には明快に説明する責任がある。特に専門家でない者には、相手の立場に立つ姿勢で分かりやすく説明する責任がある。

(自立・公益性)

3. 会員は、立案、計画、申請、実施、報告などの過程において、真実に基づき、公正であることを重視し、誠実に行動する。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為をなさず、加担しない。また、科学技術に関わる問題に対して、特定の権威・組織・利益によらない中立的・客観的な立場から討議し、責任をもって結論を導き、実行する。
4. 会員は、関与する計画と事業が人類社会や環境に及ぼす影響を予測評価する努力を怠らず、公衆の安全、健康、福祉を損なう、または環境を破壊する可能性がある場合には、中立性、客観性を保ち、自己の良心と信念に従って情報を公開する。

(中立公正)

5. 会員は、人種、性、年齢、地位、所属、思想・宗教などによって個人を差別せず、個人の人権と人格を尊重する。また、個人の自由を尊重し、公平に対応する。
6. 会員は、専門知識を説明するときは、一方的な価値観を押し付けることのないよう、他者の理解を得るように努める。
7. 会員は、他者と互いの能力の向上に努力し、専門上の批判には謙虚に耳を傾け、不公正な競争を排除する。

(契約に対する誠実性と利益相反)

8. 会員は、雇用者または依頼者それぞれのために、誠実な代理人または受託者として行動する。
9. 会員は、雇用者または依頼者から不適切な便宜供与を受けてはいけない。
10. 事業の結果および研究の成果が他団体または、自らを含む特定の個人に利益をもたらすことが予想される場合には、事前に雇用者あるいは依頼者の了承を得る。

以上



